

(二)二十五錢에서二圓迄니다 二十五錢から二圓迄です

(三)近頃は何椽가流行하오 近頃は何椽が流行しますか

(三)近頃は赤銅椽가流行하니다 近頃赤銅椽が流行します

다

(三)鐵椽는如何하오 鐵椽は如何ですか

(四)鐵椽는直鑄不宜합니다 鐵椽は直ぐに鑄びて宜けま

せん

(五)老眼鏡잇소 老眼鏡はありますか

(六)老眼鏡도種々잇습니다 老眼鏡も種々ございます

(二)此店에出여잇는双眼鏡은 此店に出てある双眼鏡は宜

宜見니가 見ぬますか

(六)十里端迄判然이見니다 十里先迄判然と見ぬま

す

本日の練習

(一)眼科醫の處方箋により近眼鏡又は老眼鏡或は養生眼鏡などを賣つて居る眼鏡店は何處にありますか (二)

獨乙製のレンズでなくてははいけません (三)金縁銀縁赤

銅縁洋銀縁鐵縁の類は何んでもございます (四)左も右



も全し度の近眼鏡では工合が悪い様ですから度の異つたのにして下さい (五) 近頃流行の廣縁の眼鏡でござい  
ます (六) 双眼鏡のレンズは最も好いレンズを用ひたい  
と遠方迄よく見たいませぬ

第三十二日 時間

- (一) 今何時頃シムツエにケつソ (今何時頃でしやうか)
- (二) 太陽ヒエが西ニ傾キいて居マすか (太陽が西に傾いて居ますか)
- (三) 太陽ヒエ (太陽) 傾シムラツ (傾) 大概テキエ (大概) 佩時計ヒエシケ (懐中時計) 壊ムソツ (壊)
- (四) 機械キカ (機械) 鑄付ノクチ (官舎役所) 進チエ (進) 官人クワンイン (役人)

時頃シムツエにケつソ

- (三) 貴公キキウ佩時計ヒエシケをケ持テちマせズ (貴公佩時計を不持)

ら大概六時頃でしやう  
貴方懐中時計をお持ちでは  
ありませんか

- (四) 我時計ナシツケをム壊ソして昨日ケ時計屋オケにケつソ (我時計を壊して昨日時計屋  
に改送)

私の時計は壊れましたから  
昨日時計屋へ直しにやりま  
した

- (五) 何ナニもモしラなシきマしたノでス (何もしませんでしたので  
すか)

おや何うなさいましたので  
すか

- (六) 水ミヅの中ナカにケつソ落オちマしたノかラ (水の中に落ちてましたか  
はい水の中へ落ちましたか)

はい水の中へ落ちましたか



不動합니다

(七) 水中에 落시던 機械는 鑄付  
덜 不히소

ら動かなくなりました

水の中へ落されたのなら機

械は鑄付きはしませんでし

たか

(八) 少々 鑄付였시나 水中에 落  
것을 拾서 直時計店에 持行  
시나가 機械는 알마 晝앗소

少々鑄付きましたけれ共水

の中へ落ちたのを拾ふなり

直ぐ時計屋へ持つて行きま

したから機械は間に合ひま

した

(九) 只今 六時頃 宜소

それは結構でした

(一〇) 只今 六時頃 이라 하면 我는  
少外 出안하면 不되겟소

只今六時頃たごするご私は

少し外出せねばなりません

(一一) 只今 六時頃 이라고 思호오  
然나 天리 曇였시나 姑 四時  
少過 실년 지 모리 겟소

只今六時頃かと思ひますけ

れども空が曇つて居ります

から未だ四時過ぎかも知れ

ません

(一二) 三글어면 隣官舍에 行서 時計  
를 見고 來給시오

夫れでは隣の役所へ行つて

時計を見て来て下さい



(三) 只今官舎の時計を見ました  
只今役所の時計を見ました  
時十五分でした

(四) 其時計は進んで居りはしま  
せんか  
其時計は進んで居りはしま  
せんか

(五) 官人聞則反遅滯  
役人に聞きましたら反つて  
遅れて居るぐらいたま云ひ  
ました  
だ云だ

(六) 其面今부터直外に出  
其れでは今から直く外へ出  
掛けましよう

(七) 何時頃歸來  
何時頃にれ歸りになります  
か

(八) 大概早歸來  
大概早く歸つて来るつもり  
ですが遅くても十時迄には  
歸つて來ます若し十時迄に  
歸つて來ませんでしたら何  
卒先は寝み下さい

(九) 元來十時迄貴公を待  
夫れでは十時迄貴方を待  
つて居ましよう  
리다



本日の練習

- (一) 太陽が西に傾いたから六時頃でしやう
- (二) いゝへ近頃は日か長いから七時頃でしやう
- (三) 貴方の懐中時計は金ですか何んご美しいですねー
- (四) 時計を水中に落しましたから機械が皆錆付いて動かなくなりました
- (五) 其機械は役に立ちませんでしやう
- (六) 役所を出た時は四時であつたから未だ五時にはなりません
- (七) 夫れでも五時半になつて居ります
- (八) 其時計は進んで居るのでしやう

第三十三日 新聞紙

- 新聞(新聞) 記事(記事) 論說(論說) 雜錄(雜錄) 世事(世事)
- 附錄(附錄) 時價表(相價表) 日々(日々) 物價(物價) 寫眞版(寫眞版) 鮮明(鮮明) 刷入(挿入) 讀(讀)
- (一) 貴公は何を讀んで居らつしやいますか

- (二) 我々新聞を讀んで居ります
- (三) 英語新聞이요
- (四) 否日本新聞이요

◎第三十三日

百九十九

貴方は何を讀んで居らつしやいますか

やいますか

私は新聞を讀んで居ります

英字新聞ですか

いゝへ日本の新聞です



(五) 何新聞이요

何新聞ですか

(六) 大阪毎日新聞이요

大阪毎日新聞です

(七) 東京新聞은 不見심니가

東京の新聞はれこりになつては居りませんか

(八) 東京新聞은 萬朝報를 取니

東京の新聞では萬朝報を取つて居ります

(九) 其新聞은 今日것시요

其新聞は今日のですか

(一〇) 否 今日것은 未來소 昨日것

い、へ今日のは未だ來ません昨日のです

시요

(二) 今日新聞은 何日頃來니가

今日の新聞は何日頃に參り

(三) 明朝에 來것제요

ますか  
明朝參るでしやう

(四) 何나 滋味은 記事가 잇소

何か面白い記事があります

(五) 滋味은 記事가 多잇심니다

面白記事は澤山ござります

(六) 貴公은 新聞에 何記事를 第

貴方は新聞の何の記事を

一番에 讀심니가

一番にれ讀みなさいますか



(六) 我ナ는 小説シヨソルルルチ를 第一チ番エイル에 讀ア니オン다 我ナは 小説シヨソルルルチを 一チ番エイルに 讀アみます

다

(七) 我ナ는 小説シヨシタル보 論說トムロンソル片ペン이 滋イ味ザ심ニ다 我ナは 小説シヨシタルより 論說トムロンソルの 方ペンが 面

味ミツシム심ニ다

白シラろ ござい ます

(八) 雜錄ザロク에 是ニ何ニム樣ン記キ事サ가 載イッ심シム 雜錄ザロクに は 何ニムん ぶ 記キ事サが あり

나ニ가

ま ず か

(九) 雜錄ザロク에 是ニ世セ事サ의 惡アク事サ善サシ事チユ 雜錄ザロクに は 世セの 事サの 惡アク事サ善サシ事チユ

는 元マン부터 所ソ有ユ萬マン事サ가 載イッ소 是ニ元マンより 所ソ有ユ萬マン事サが 載イッ

載イッ소 載イッつて 居イります

(一〇) 少ソク其キ附錄フロク을 見ミ給キ시요 一ソク寸シユ其キ附錄フロクを 見ミせて 下シさい

(一一) 時價表ジカ에 是ニ日ニ々ニ의 物價モノカ가 相場表ソウジョウに は 日ニ々ニの 物價モノカが 載

載イッ소

つて 居イります

(一二) 此イ寫真版ジヤンパン는 何ニム鮮明センメイ히 刷シ 此イの 寫真版ジヤンパンは 何ニム鮮明センメイに 刷

심シム니다 아

れて 居イります ねー

(一三) 今イマ는 何ニム新聞シンブン도 皆ハム寫真版ジヤンパン을 刷シ入ハム니다 左サ様サマで す 今イマは 何ニムの 新聞シンブンも 皆

寫真版ジヤンパン을 刷シ入ハム니다

寫真版ジヤンパンを 挿入ハムします

本日コンニチの 練習レンシユ

(一) 近頃キンキョウの 新聞紙シンブンシには 面白オモシロイい 記事キジが 澤山ソクサン載イッつて 居イります



(二)此寫真版は實に鮮明に出來て居りますねー (三)はい  
 近頃は日本の新聞の寫真版も段々鮮明になつて來ま  
 した (四)雜錄には種々の事が載つてあるから面白うご  
 ざいます (五)附録には何が載つてありますか (六)附録  
 は相場表ばかりです (七)今日の論説は仲々宜しうござ  
 います

第三十四日 花見

始(始) 向方(勝手) 櫻花(櫻花) 高名(名高) 俗態(俗  
 氣) 塵芥(塵芥) 衛生(衛生) 見花花見 藝妓(藝妓) 連

率(連れる) 名所(名所) 聞(聞) 土地(土地) 雅態(雅致)

引導(案内) 美眺(美眺)

(一)我(我) 是(是) 京(京) 都(都) へ 始(始) 來(來) し 向(向) 方(方) 私(私) は 京(京) 都(都) へ 始(始) め て 來(來) た も の  
 을 모름 니 다 櫻(櫻) 花(花) 는 何(何) 處(處) 가 だ  
 宜(宜) じ け し ん 니 가  
 櫻(櫻) の 花(花) は 何(何) 處(處) が 宜(宜) し い で し  
 やうか

(二)祇園(祇園) の 夜(夜) 櫻(櫻) 等(等) 大(大) 端(端) 高(高) 名(名)  
 祇園(祇園) の 夜(夜) 櫻(櫻) な ど は 仲(仲) 々(々) 名(名) 高(高)  
 多(多) 々(々) 俗(俗) 氣(氣) 가 多(多) 니 다  
 う ござ り ま す が あ ま り 俗(俗) 氣(氣)  
 가 多(多) 우 ぞ ざ 이 ㅁ ㅁ ㅁ



(三) 何故俗態が多심니가

何故俗氣が多いのですか

(四) 餘多人이 出서 塵芥 병천에

あまり澤山人出が多くて塵

衛生에 도惡고 又見花客은

芥たらけで衛生にも惡うで

藝妓들을 連率하고 酒에 醉

ざりますし其上花見の客は

者 辨나 벗가

藝妓などを連れて酒に酔つ

たものばかりですから

(五) 其處所는 好찬 소嵐山는 櫻

夫んなところはよくありま

花의 名所라고 聞시나 如何

せん嵐山は櫻の名所たご云

심니가

ふとを聞ましたが如何です

(六) 嵐山는 京都地方서는 第一

嵐山は京都地方では第一の

櫻花의 名所이다 此處도 依

櫻花の名所ですこゝもやは

然 櫻花가 開時되면 醉客이

り櫻花在開く時分になると

多見花를 行서 俗되여 잇

醉客が澤山花見に行つて俗

시나 土地가 廣故로 圓山

めいて居りますけれど土地

보림은 雅態가 잇소

が廣いものですから圓山よ

りは雅致があります

(七) 嵐山 景色은 何樣니가

嵐山の景色は何んなですか



(八) 山サン一イチ帶タイ에 櫻ウツク花ハナ가 咲ハ서 其ソノ前マエ

山サン一イチ帶タイに 櫻ウツク花ハナが 開ヒいて 其ソノ前マエ

前マエ에는 大オホ堰ヰ川カハ이 流フル서 其ソノ透ツ明メイ

前マエには 大オホ堰ヰ川カハが 流フルれて 其ソノ透ツ明メイ

(九) 一イチ番バン見ミ구 心シン平ヘイ나 依イ然ニ步ボ行ウ

一イチ度タク見ミたい もの です が や は

(一〇) 否フ京キョウ都ト서 嵐ラン山サン々々 鐵テツ道ダウ가

い、へ 京キョウ都トから 嵐ラン山サンま で 鐵テツ道ダウが か、つて 居イります

(二) 步フ行ウ하 면 遠エン나 가

歩フいて 行イつて は 遠エンい です か

(三) 그 뒤 地ヂ遠エン잔 소 二ニ里リ半ハン程テイ外ガイ

そん な に 遠エンく は り あ ま せ ん

二ニ里リ半ハン程テイよ り あ り ま せ ん か

(三) 三サン글 어 문 步ボ行ウ하 는 片ペ이 趣ソウ味ミ

夫ウれ で は 歩フる い て 行イく 方カタが

趣ソウ味ミが あ る で は あ り ま せ ん

(四) 四シ글 엇 처 요 步フ면 서 道ダウ處チュ名メイ所ショ

左サ様ヤマで す 歩フる さ な が ら 道ダウ々々

名メイ所ショを 尋ヒね な が ら 行イく の も

(四) 四シ글 엇 처 요 步フ면 서 道ダウ處チュ名メイ所ショ

面オモ白シロう で ざ り ま す

심 나 다



(一) タルオムンメンケイルハンカソカフシダ 五글어은明日共往시다

夫れでは明日一處にお供え  
ましやうか

(二) イユイトハオリダ 諾引導す오리다

はい案内しましやう

(三) ヒカオレンキチャルルヌイコカシ 雨가降면瀛車를乘고行시다

雨が降つたら瀛車に乗つて  
行きましやう

(四) イユウチユングエンクノワトトイムダシミチヨ 雨中櫻花도又一段美眺

はい雨中の櫻花も又一段の  
眺めがあります

가잇소

本日迄は新語及練習を付けて來ましたが最早大概の新語は掲載しましたし又此後の新語は珍しいものもあり

ません大概日本の文字を只朝鮮音で讀むばかりですからこれを省きます又練習も今日迄の方法により獨習せられたならば宜しきにより著者に於て練習問題を出さず各自が問題を案出して練習せられんことを希望す

第三十五日 久別相會

(一) アノオラエカンホツメラシムニ 아-久間未見심니다

ねや久しくお目に掛かゝり  
ませんでした

(二) イエホラエカンムシアシクシツエヤツシムニ 예久間無聲息되얏심니다

はい久しく御不沙汰致しま  
した



(三) 先日來シアンイルヲエに長エシリイル日本ホシエケに居ケ留シ多マ

云ハシ事アシナ日本イル何處ホシ被居ケ心シニ

加カ

(四) 日本イユイル京都ボンケンに居エ所イシ

先日來は長らく日本へ行ら  
つしやつたこと云ふとですが  
日本の何處いらつしやいに被居いらつしやいましたか  
はい日本の京都に居りまし  
た

(五) 何事ムシに行シ所アに

何の御用で行らつしやつた  
のですか

(六) 官事クワンシに参カり

(七) 京都ケンクトは何處ムシに

官の役向で参りました  
京都は何んな土地ですか

(八) 其ク日本イル公園コンクに

且水トムルは透ル明ツ美景メシヨウに

夫れは日本の公園とも云は  
れる丈けあつて山は緑に花  
は紅に其上水は透つて美し  
いところです

(九) 宮城クニシを拜觀ハす

(一〇) 拜觀ハす所ハ今イマ昔キヨク

何事ナニに

宮城を拜しましたか  
はい拜しました只今は昔こ  
違つて皇居が東京に遷され  
ましたナがそれでも尙古の面  
影が残つて何んもなく崇高



起심니다

の心を起します

(二) 二京都는 神社佛閣이 多處지  
라고 聞시나 其樣케 多잇소

京都は神社佛閣の多いところ  
ろたご聞きましたがそんな

に澤山ありますか

(三) 三예 神社佛閣은 到處에 잇소

はい神社佛閣は到るところ

神社로는 加茂八坂北野稻

にあります神社には加茂、

荷平野御靈神社等有名

八坂、北野、稻荷、平野、御靈

寺고 佛閣으로는 智恩院本

神社などが有名ですし佛閣

願寺은 別般宏壯합니다

には智恩院、本願寺などは

仲々立派なものです

(三) 三櫻의 名所는 何處잇소

櫻の名所は何處ですか

(四) 四櫻의 名所도 數수 읍시나 嵐

櫻の名所も数へきれぬ程あ

山 御室祇園等에서 四方山

りますが嵐山、れ室、祇園な

々は皆櫻의 名所요

だから四方の山々皆櫻の名

所です

(五) 五秋楓葉은 如何소

秋の楓葉は如何ですか

(六) 六日本는 朝鮮과 違つて 四方山々

日本は朝鮮と違つて四方の

에 樹기 鬱々히 繁盛키 엇시

山々に樹が鬱々こしけつて



ニカカウツエニチャツシエシユヨイ  
ニガ秋되면此等の樹葉이  
皆紅色이되니가實는可觀  
이요  
居りますから秋になります  
ごこれ等の樹の葉が皆紅く  
なりますから實に見事です

(七) 楓葉名所は何處よ

楓葉の名所は何處ですか

(六) 今話과如치何處나彼處나

今お話した様に何處も彼處

宜심니다만特別리三尾의

も宜しうございますが取わ

楓葉이라云는데高尾梅尾

け三尾の楓葉と云つて高尾

槇尾의楓葉은天下에有名

梅尾、槇尾の楓葉は天下に

한것시요

有名なものです

(五) 其면何처럼好都會을시다

其れは何んど好い都です予

아我도一番는期於이究景

私も一度は是非見物に行き

가로行잡소

たいものです

(四) 我도何來年頃되면又日本

私も何れ來年になつたら又

에行거서니其時에共參

日本へ行きますから其時に

시다

一處に参りまじやう

第三十六日

雜貨店

(一) 貴店에香水잇소

お店に香水はありますか

(二) 種々잇심니다何印을

はい種々をぎいます何印に



シケソ

致しましやう

(三) 鶴印과 龜印을 見여 給오

鶴印と龜印を見せて下さ

(四) 大瓶入과 中瓶入과 小瓶入

大瓶入と中瓶入と小瓶入と

이 잇심니다 其條覽給시요

ございます 何卒御覽下さい

(五) 龜印의 中瓶入은 幾錢이요

龜印の中瓶入は幾錢ですか

(六) 一瓶에 三十錢이요 十瓶에

一瓶が三十錢で一打が二圓

二圓八十錢이요

八十錢です

(七) 글어면 五瓶만 給오

夫れでは半打下さい

(八) 石鹼는 不買시요

石鹼はれ入用ではありませんか

(九) 舶來의 上等品이 잇거든 見여 給오

舶來の上等品がありましたら見せて下さい

(一〇) 此箱入의 石鹼는 極上等이

この箱入の石鹼は極上等です

(一一) 此石鹼는 不好소

この石鹼はよくない

(一二) 何故호

何故ですか

(一三) 此樣硬면 勿使요

こんなに硬くては使へない



(四) 餘柔것보덤硬片이德用이  
あまり柔かなより硬い方が  
德用です

(五) 硬石鹼는期必고混合物이  
硬い石鹼は屹度混合物があ  
ります

(六) 此石鹼는如何호오香臭가  
甚이宜심니다  
この石鹼は如何です香が甚  
た宜うございます

(七) 香臭가도嗅辨으로는宜石  
鹼라云수無소  
香がよいばかりでは宜い石  
鹼云ふとが出来ません

(八) 絹手巾는無소  
絹の手巾はありませんか

(九) 紋采잇는것시요無는것시  
摸樣のあるのですか無地で  
すか

(一〇) 無紋片宜소  
無地の方がよろしい

(一一) 紋兒체요有紋者는反여瑕  
左様です摸樣のあるのは反  
つて瑕物が多うございます

(一二) 彼見本箱中에잇는것는依  
然絹手巾는無소  
あの見本箱の中にあるのは  
やはり絹の手巾ではありません  
せんか

(一三) 否彼은近頃流行는首  
いへへ、あれは近頃流行の



卷コン이요イヨ

首卷コノマクです

(一) 絹首卷과 毛皮首卷과 何片  
이暖이따뜻하오하오

絹の首卷と毛皮の首卷とは  
何方어디が暖따뜻い따뜻ですか

(二) 其는 毛皮片이 暖따뜻합니다

夫그れは毛皮모피の方が暖따뜻う따뜻ござ  
います

第三十七日

魚어 賣판다

(一) 今日오늘는 魚어는 如何어떻게하오

今日오늘は魚어は如何어떻게ですか

(二) 何무엇시 잇소

何무엇がありますか

(三) 鯛대구、鯉잉어、比目魚비목어、鰯머리치等등이

鯛대구、鯉잉어、比目魚비목어、鰯머리치等등が

잇심잇심니다

ござございます

(四) 鯛대구은 幾얼마錢돈냐

鯛대구は幾얼마錢돈た

(五) 百目백목에 五十五十錢돈이요

百目백목が五十五十錢돈です

(六) 非常매우高높잔으냐

非常매우に高높い높ではないが

(七) 先日지난날來옴의 暴風雨폭풍우로 서 魚어

先日지난날來옴の暴風雨폭풍우で魚어はさつ

는 完완동 不漁불어시니 價가시 高높니  
다

はり取とれませんから直段직단が  
高높うござございます

(八) 鯉잉어는 新새것신가

鯉잉어は新새らしいのか

(九) 極극히 新새것시요

極극く新새しいのです



(一) 鯉イシノオマンホは今日市場シヤシヤクに澤山エマニあつたから安ザイいたろう

(二) 市場シヤシヤクに澤山エマニあるのは皆新ダイシエケツしいのでありません新しいのは何ナニうしても直段ジキダが高タカうございます

(三) 鯖サバの入荷イリカはありませんか  
鯖サバはさつぱり入荷イリカがありません  
せん

三鯖サバ來キつツいイつツソソ  
三鯖サバ來キつツいイつツソソ  
三鯖サバ來キつツいイつツソソ

(一) 何故ナニニシテですか

(二) 今頃イマツキの鯖サバは味アジが好ヨクくありま  
せんから

(三) 何月頃ナニツキツキになると味アジがよくな  
りますか

(四) 何ナニうしても秋アキにならないと  
美味ウマシくなりません

(五) 今朝アサ九時ク着キた魚イサには何ナニんな  
種類シユレイのものがありましたか



(元) 彼 是皆鯽魚也

(二) 螃蟹類は來つ無所

(三) 持來つ多有ニだ 貴公

は介類は不好だ云は故

持去つて安んず

あれは皆鯽ばかりです

介類は入荷はありませんか

入荷は澤山ありますけれど

も旦那は介類は嫌ひたご

云ふとですから持つて上り

ませんでした

第三十八日 吳服屋

(一) 室内主吳服商が來心ニだ 奥様吳服屋が参りました

(二) 此處來らせが 此方へ通しなさい

(三) 今日是好天氣を시다 毎恒 今日は宜い天氣でございま

感謝を申します 毎度有難うございます

(四) 付託を置複衣を申すに 注文して置いた綿入は出來

ましたか

(五) 例にやしません 某條着見給 へい出來ました何卒着て下

さいませ

(六) 此衣服は丁度身體によく 合ひます

合ひます

(七) 其衣服は絹故に品位が宜 其着物は絹ですから品位が



심니다

宜うございます

(八) 常着は何던지完實布는

常着にする何か丈夫な布地

無소

はありませんか

(九) 此紬는如何심니가

この紬は如何ですか

(一〇) 此것은過華采호오

この柄は派手過ぎます

(一一) 其은如何심니가

夫れでは如何ですか

(一二) 此은何라云는布요

これは何ご云ふ布ですか

(一三) 此은絹綿交織것시요

これは絹綿交織です

(一四) 此은直裂질덜호일른無소

これは直きに裂ける様など

(一五) 緯에木綿이入시니裂질덜호念慮는無심니다

はありませんか  
緯に木綿が入れてあります  
から裂ける様な氣づかひは  
ありません

(一六) 裳가암잇소  
何잇심니다何色치宜심니가

女袴地はありますか  
でござります、何色が宜しう  
ございますか

(一七) 紅色이宜소  
紅色은過華麗호니紫色은

紅色で宜しい  
紅色はあまり派手過ぎます



如何심니다

から紫色は如何ですか

(二) 紫色이라도宜소

紫色でも宜しい

(三) 글어면此心에入시요

夫れでは此れはお氣に入り

ましたか

(三) 此心에入요此裳로지

これが氣に入りましたこれ

여주오然나積을 잘잡잔으

を袴に仕立て下さい、然か

면見에好찬하니心디러積

しヒダをよく取らないと見

을 잘자바給오

つとも好くないから氣を付

けてヒダをよく取つて下さ

(三) 敬認니다、上衣감은不要

畏まりました、羽織地は要

나가

りませんか

(二) 羅의上衣감이잇거던明日

羅の羽織地があつたら明日

持來오

持つて來て下さい

(二) 承知니다

承知しました

(二) 木綿類가貴店에잇소

木綿類はれ店にありますか

(二) 我等店에는木綿類는扱들

私共の店では木綿類は扱ひ

안함니다皆絹布뿐이요

ませぬ皆絹布ばかりです



第三十九日 晝飯

(一) 貴公キキウは毎日晝飯シラヘに何をニニれ上カりになりますか

(二) 我ナは肉類ニク又マタは魚類イサを食クべますス

(三) 野菜ヤは何ニんなものを食クべられますか

(四) 何ニらカ고定キョウ수ス음ム노其時ソノトキ를從シ何ニこ云クつて定キョウまりません其時ソノトキ節セツに從シつて何ニんでも食クべ

(五) 尊公ソウコンの嫌キライひな野菜ヤサイはありまませんか

(六) 我ナは菜蔬サイソらハ는ニ것ニ스ニ皆好ハハひ私シは野菜ヤサイは皆好ハハきです嫌キライひなものはありません

(七) 肉類ニク는何ニがれ好ハハきですか

(八) 私シは牛肉ニクがハ一番好ハハきです

(九) 豚肉ブタニクはハお上カりになりますか

(一〇) 不食フシク은不フさニ나ハ미マ우好ハハ잔ゼン소ソ食クべない事コトはありませんけ











(三) クルホメンシチクパンモンメツシムサブスツシム 三 夕飯は何時頃食す  
夫れでは晩飯は何時頃お上  
りになりますか

(四) シチハバンモンハムクシシムカシモクシムニ 四 夕飯は夜九時頃迄食す  
晩飯は夜の九時迄に食べま  
す

(五) クルホツケハメンシチクパンモンメツシム 五 夕飯は夜九時頃迄食す  
夫んな事をしては衛生によ  
くないでしやう

(六) イエウイセングエモンアンダツセヨ 六 衛生には好くないでし  
はいい衛生には好くないでし  
やうけれど慣れると反つて  
正當の時間に飯を食ふこと  
に

다

(一) クルホオメンアモゾロクツエ 一 此清醬은非常苦가何심니  
夫れでは何卒後程お上り下  
さい

(二) コムアアシム 二 感謝합니다  
有難うござります

第四十日 晩飯

(一) イシオシクザンクウシム 一 此清醬은非常苦가何심니  
この醬油は非常に苦いが何  
うしたのですか

(二) ムコツシニカマツツシ 二 古시니가不味되어것심니  
古くなつたから不味くなつ  
たのでしやう



(三) 新サエケツ 것スル 出ナ 給エヨ 오ホ

新しいのを出してくれ

(四) 此イ 南ホ 瓜ク 是ウ 砂ク 糖ウ 入ル 是イ 加ヨ 過ム カノム

この南瓜は砂糖を入れたの

甘カ 安ラ 되ア 엿즈 소어

か甘すぎていかぬ

(五) 南ホ 瓜ク 을ウル 煮チ 는ジ 데몬 砂サ 糖ダ 等シ 是ツ 不ル アン

南瓜を煮るのに砂糖なんぞ

入チ 소차 元우 不어 南호 瓜쿠 是우 甘단 것것 시시

は入れません元から南瓜は

요

甘いものです

(六) 此이 肴레 是는 何무 시니 나냐

この肴は何だ

(七) 其그 是것 鰻스 을을 시시 다다

夫れは鰻でございます

(八) 此이 鰻가 是는 味맛 시시 美맛 公공 小소

この鰻は味がよい

(九) 貴가 方방 酒주 를를 飲마 심심 니니 가가

貴方お酒をた上りになりま

せんか

(一〇) 酒술 飲마 심심 소소

酒は飲みたい

(一一) 酒술 吧바 드드 로로 보보 님님 시시 다다

酒を取りにやりまじやう

(一二) 今지금 家가 에에 음음 시시 면면 不안 飲음 도도 宜적 니니

今家になければ飲まぬでも

取취 노노 不안 遺안 도도 宜적 심심 니니 다다

宜しいから取りに行かぬで

も宜しい

(一三) 濁탁 酒주 면면 是이 酒주 小소

濁酒なら御座りますが如何

です



(一四) 濁酒라도宜소

濁酒でも宜しい

(一五) 葡萄酒를好시요

葡萄酒はお好きですか

(一六) 葡萄酒는甘故嫌타

葡萄酒は甘いから嫌やた

(一七) 麥酒는如何심니가

麥酒は如何ですか

(一八) 麥酒는好타 麥酒는家에잇

麥酒は好きた 麥酒は家にあ

던냐

つたか

(一九) 昨日丁某氏게서得히시

はい昨日丁さすから貰つた

二瓶잇심니다

のが二瓶でざります

(二〇) 其은其것슬持來너라

其れでは夫れを持つて來て

くれ

(二一) 栓拔는것無곤

コロツプ抜きがありません

(二二) 無면隣家에往서借來너라

なければ隣へ行つて借つて

來い

(二三) 瓶口을傷찬코로操心사야

壇の口を壊さぬ様に氣を付

고롯푸를拔라

けてコロツプを抜け

(二四) 高롯푸가堅사여不拔니다

コロツプが堅くて抜けませ

ん

(二五) 十分力을入려拔라然나麥

充分力を入れて抜け然し麥



酒を勿論ナ

酒をこぼすな

第四十一日 電信局

(一) 我ニ電報ヲ欲打シヨ 我ニ電報が打たうござりませ

す

(二) 其電報用紙ニ記載ハシヨ 其電報用紙に認めなさい

(三) 電報用紙ニ何處有乎 電報用紙は何處にあり

ますか

(四) 彼方机ニ有ハシヨ 彼方の机の上に載つて居り

ます

(五) 예、記載하였습니다、某はい認めました何卒これを

お出し下さい

(六) 此電信料ニ幾式イヨ 此電信料は幾錢ですか

(七) 此ニ十四字ニ二十錢イヨ 之れは十四字ですから二十

錢です

(八) 暫間待리시요、受信人ノ 一寸お待ちなさい受信人の

名前に殿の字などを付けて

하오 名前に殿の字などを付けてはいけません

(九) 何故로殿字ヲ書면不可함 何故殿の字を付けてはいけ



나가

ませんか

(一) 電信에 用하난 文字는 總簡 電信に用ふる文字はすべて 單한 거슬 主하난 故로 殿이 簡略を尊びますから 殿ごか 様이라 하난 敬稱을 用치 様ごか云ふ敬稱を用ひない 安난 거시 ぞ습니다 のが宜しい

(二) 此電信에 回信이 願인데 如 此の電報に返信が欲しいの 何면 宜습니다 ですか如何したら宜しいか

(三) 其 거슨 回信料를 前納하여 夫れは 返信料を前納して置 두면 配達人이 受信人에서 いたら配達人が受信人の處

即回電를 受다가 줍습니다 直ぐ返電を貰つて來てく

れます

(三) 回電은 何時에 有습니다 返電は何時ありますか

(四) 조곰 待리시요 即이스니 間 少しれ待ちなさい 直ぐにあ

りますから

(五) 我는 電信發는 心得을 不知 我れは 電信を發する心得を知 니 某條 辱敎쳐 주시요

さい

(六) 別로 難지 안소 只 電信事務 別に六かしい事はありませ







(三) 其後返電等を할時에도配達人을待너置지안케하시요  
 夫れから返電などをする時にも配達人を待たせて置く様な事をせない様にしなさい

(三) 예知습니다感謝하오  
 はい判りました有難うござ

(二) 方今返電이왔습니다  
 只今返電がありました

(二) 手苦를하셨습니다  
 ね手数を掛けました

第四十二日 洗濯

(一) 衣服에汗이무더서心이不快하니洗衣家에주워서洗게하게  
 衣服が汗づいて氣持が悪るいから洗濯へやつて洗はせてくれ

(二) 單衣니가合衣니가  
 はい單物の方ですか袴の方ですか

(三) 單衣는그다지垢가세지아나스니아직被가스나合衣는고만아무라도被지못하갓소  
 單物の方は夫んなに垢づいて居ないから未だ着る事が出来るけれど袴の方はもー何うしても着られない



(四) 그 릿소, 合衣슨垢가多니  
左様です裕の方は領垢が澤  
세여셔臭가生게된엿소  
山ついで臭くなつて居りま  
す

(五) 아레洗나구준洋服은 아직  
此間洗ひにやつた洋服は未  
洗지아난너냐  
た洗つて居ないか

(六) 昨日持레갓씩스나아직洗  
昨日取りに行きました但未  
지아는模樣데다  
た洗つて居ない様です

(七) 洗送지가一介月이되엿난  
洗ひにやつてから一ヶ月に  
디何故尙久洗지아난너냐  
もなるのに何故未だ洗へな

いのか

(八) 彼洗衣屋은怠惰너셔할슈  
あの洗濯屋は怠惰で仕方が  
가업소前日도洗라온白内  
ありません此間も洗つて來  
服을淡黑러하게망그릿소  
た白色の下着を淡黒くして  
그러케할너면家에서洗는  
こまいましたあんな事なら  
거시勝갓소  
内で洗つた方がまゐです

(九) 彼洗衣屋에嚴하게말及여  
あの洗濯屋に嚴しく云ひ付  
此後에는注意하아셔洗게  
けて以後注意して洗はせな  
하요  
さい



(一) チリニムカチ トカフス ニ クワバクホリツ  
나리님가라! 과가우슈는  
快クワイ汚ト워스니新サイ것과易クワ릿  
가 ハ日那このカラーごカフスご  
は大分汚れて居る様ですか  
ら新しいのをご取かへましや  
うか

(二) サイ コツ クワ バク ワ ズ フ ク コ コ  
新サイ것과易クワ와주게그러커고  
古ナル근거스ユ는洗バル衣チ屋チ에주게  
新サイしいのをご取りかへて呉れ  
そして古いのを洗濯屋にや  
れ

(三) ナイ ハ ル チ チ エ ソ キ ヤ ウ ヤ ン ク ホ ク マ ン  
나리洗ハ衣ル屋チ에서僅チ洋エ服ソ만  
洗バル다고持カ고來コ습ワ습니다  
日那洗濯屋から漸つご洋服  
が洗つたご云つて持つて來

(三) ク ロ ツ ソ ボ イ ヤ メ ダ ゲ  
그릿소見주게  
左様が見せて呉れ

(四) イ ロ ケ ビ ツ ス ル ナ ル ニ オ ッ ダ ク ロ ツ コ  
이르케色ビ출ツ飛ス웠다그릿코  
質ハ도幾タ桴ン薄グ진ト模シ樣ヤ이다  
つたそして地も餘程薄くお  
つた様だ

(五) ク ロ ツ ソ ラ シ ヤ ウ ト ル イ ダ バ  
그릿소、羅紗ラ의毛シ리皆ト拔ルけ  
左様です羅紗の毛が皆抜け  
てしましました

(六) チ ロ ン バル チ エ ソ ン チ フ エ バル  
彼チ런洗バル衣チ屋エ에는此ソ後ン에洗バル  
질ナイ시켜선안되간カン네他タル處ン호  
あんな洗濯屋へはこれから  
洗濯をさせてはならぬ外に



フンバルチチアアシオアモシカ  
洗濯衣屋はなにか

よい洗濯屋はないか

(七) 예 横町에 今度新洗衣  
チアイトエヨシニコエハシ  
屋이 되여 시니其虛에 一度  
バルチチカシツキアアセ  
洗濯 시켜 見세다

はい横町に今度新しい洗濯  
屋が出来ましたからあの店  
で一度洗はして見まじやう

洗질 시켜 見세다

で一度洗はして見まじやう

第四十三日 送別會

(一) 我는 今番北京에 行터 이요 私は 今度北京へ 行くつもり  
ナマムアアアアアアアアアア  
です

です

(二) 何호로 行심니가  
ムオツハロカシムニカ

何をしに行かれるのですか

(三) 商賣호로 行니다  
ザンガサハロカムニダ

商賣をしに行きます

(四) 何商賣를 할것심니가  
ムンザンガサハロカムニカ

何商賣をなさいますのですか

(五) 何商賣지 未分니다  
ムンザンガサハロカムニダ

何商賣たか未だ分りません

(六) 何商賣라고 定잔코 行서 何  
ムンザンガサハロカムニカ  
事되것소  
シツエケツソ

行つて何が出来ますか

(七) 北京에 着호而 後에 好商賣  
アケケンクエチヤラハーイフエ  
를 視次에 其商賣를 始作할  
ハルボンダムエクザンガサ  
ハルルシザクハル

北京へ着いてから好い商賣  
を見付け次第其商賣を始め  
るつもりです

터 이요

るつもりです

(八) 物品은 如何호시요  
ムルアムウシオウシハシヨ

品物は如何としますか



(九) 北京서何시克賣단는告知  
北京で何が好く賣れること云  
次에 貴公에 寄別할터니 某  
ふか明り次第貴方の處へ云  
條其物을 送給이요  
かて來ますから何卒其品を  
送つて下さい

(二) 예 認니다、글어면久間  
はい畏まりまこれ夫れでは  
相面치몬것소今夕에五  
暫く御面會するにも出來ま  
六人朋友고 送別會를開  
せんから今晚五六人朋友と  
設할터니 某條出席을야給  
送別會を開きますから何卒  
시요  
御出席下さい

(二) 其는 惶悚합니다 答弊를  
夫れは恐入ります 御手敷を  
야서는 不安하니 今番는 失  
掛けては濟みませんから今  
禮합니다  
度は失禮致します

(三) 그디지 体面보실일아 남니  
夫んなに御遠慮をなさるに  
다 글하면 反여 我等의 親意  
は及びません夫れでは反つ  
를 踈忽기하시는 모양입니다  
て私共好意を無にするご云  
ふものです

(三) 그디지 말심하시는데 辭退  
夫んなに仰しやるのなら辭  
흥은 反여 失禮되니 加글어  
退しますのは反つて失禮で



면貴公命敎를從것심니다  
すから夫れでは貴方の仰せ

に従ひまじやう

(四) 그호은今夕六時内期於弊  
夫れでは今晚六時迄に是非

宅迄枉臨하야給시요  
私の宅迄れ出で下さい

(五) 예認니다然나決코盛饌으  
はい畏まりした、然し決し  
로하지는말르시요  
て御馳走をして下さいます

な

(六) 何것도念慮될건음소眞送  
何もれ構ひは致しません眞  
別志별이요  
の送別の志したけです

(七) 何日頃歸宅하시것소  
何日頃にお歸りになります

か

(八) 我는北京에서五六年居실  
私は北京に五六年居るつも  
터이요然나依事機히서加  
りですけれど都合によれば  
長久이住년지不知것소  
もつと長く住むかも知れま

せん

(九) 北京往서도某條數々貴通  
北京へ行きましても何卒度  
信늘望니다  
々御通信を願ひます

(二〇) 貴公도北京景況을問々  
はい貴方も北京の景況を時



通知さや給しよ

々お知らせ下さい

(三) 儲金方策有면從速

はい金儲の口がありました

通寄さ리다

ら早速知らせまじやう

(三) 北京名産を爲知給しよ金

北京の名産を知らせ下さい

늘送러니手苦利만買送여

金を送りますからお手数で

給しよ

も買ひ求めて送つて下さ

(三) 可宜심니다早速히告達사

宜しうござりますます早速調達

오리다

致しまじやう

第四十四日 下 僕

(一) 鄙家에는此頃匆忙한데助

私の家は此頃忙しいのに人

事者가少故로不自由되야

手が少ないから不自由で困

悶困합니다

ります

(二) 글어면小童을雇傭하면如

夫れでは小僧を雇れたら如

何사오

何ですか

(三) 先日부터此方彼方囑託사

先日から彼方此方へ頼んで

얏제만未得見들몬히소

置きましたが未だ見つか

りません



(四) 글어면미우不安합니다 幸

이我親戚의小童이雇工을  
구심다하니周旋하리가

(五) 글어은感謝하옵니다

(六) 年은十五歲라도大端身體  
도壯大하고克勤勉하야適  
當하직합니다

(七) 其는맞치宜當소某條周旋

夫れはれ氣の毒です幸ひ私  
の親戚の小供か奉公したい  
ご云つて居りますからお世  
話しまじやうか

夫れは有難うございます  
年は十五歳ですが仲々身体  
も大きくよく働いて間に合  
ふそうです

夫れは丁度結構です何卒れ

하야  
給시요

(八) 本人는文字도써書고且珠

算도分辨니가貴店에使漢  
이되여도合當합니다

世話下さい

當人は文字も書けますし珠  
算も出来ますからお店にお  
使ひになつても間に合ひま  
す

(九) 何時率다給시것소

(一〇) 明朝에라도率고上往리라  
(二) 後日의紛爭을免하키爲하  
야賃金を定하야置시다

何時お連れ下さいますか明  
朝でも連れて上ります  
後日の紛争を免る爲め賃金  
を定めて置きますやう



(三) 常人을使漢삼은後에定키  
야도宜심제요  
當人をれ使になつてから定めても宜しいでしやう

(三) 글어은二三日使見고서給料를定함시다  
夫れでは二三日使つて見たから賃金を定めまじやう

(四) 保證人을要키것소  
保證人は要りますか

(五) 예確實호保證人늘要함니다  
はい確實な保證人が要ります

(六) 글호은我が保證人이됨시다  
夫れでは私が保證人になりまじやう

(七) 그는宜심니다 貴公이保證人이되여給시면大確實호입니다  
夫れは結構です 貴方が保證人になつて下さいますれば大丈夫です

(八) 此間貴所託호小童은貴公心에入딘가  
此間れ世話しました小僧はれ氣に入りましたか

(九) 예미우心에入니다 感謝호은니다 글어면早速히賃金을定함시다  
はい大層氣に入りました有難うございました 夫れでは早速賃金の事を定めまじやう



(三) 賃金은 一ヶ月二圓으로 賃金は一ヶ月二圓として別

고 別ノ賞給을 與것소 心付をやりませす

(三) 衣服은 自己가 持소 衣服は自分持ですか

(三) 衣服은 自己가 持시나 洗 はい衣服は自分持ですが洗

濯는 此方서 시 汲시다 濯は此方でさせませす

第四十五日 植物園

(一) 今日如치 此樣히 暖고 天 今日の様なこんな暖い  
氣好日 貴公는 何故로 家 かも天氣のよい日に貴方は  
에 居니가 何故家に居られるのですか

(二) 아 金某氏가 來臨요 今日 あ金さんですか被來い今日  
는 非常이 元氣가 宜심니다 は非常に元氣か宜しいです

아 ね

(三) 今日 日曜가 아 님가 其 今日は日曜ではありません  
樣케 家에서 工夫만하 면 病 か そんなに家に居つて勉強  
이 됩니다 ばかりして居るゝ病氣にな  
りますよ

(四) 否別로 工夫만하 出 いや別に勉強ばかりして居  
行하 더 리도 親故가 無서 悶 る譯ではありません外へ出



함디다

掛けようにも朋友がなくて  
困つて居りました

(五) 글어면맛참幸이요我과共  
植物園에行리가

それは丁度幸ひです私と一  
處に植物園へ行きましやう  
か

(六) 其는宜소早速히出시다

夫れは結構です早速出掛け  
ましやう

(七) 아이다美麗스케花차咲곤

れや美麗に花の咲いて居り  
ますこと

(八) 溫室의設置가된듯함니다

温室の設けが出来たようで  
すが見に行きましやう

(九) 何處잇소

何處にありますか

(一〇) 彼隅에잇소

あの角のところにあります  
温室内には外國の花が咲い  
て居ります

(一一) 溫室內는外國花차咲소

て居ります

(一二) 글엇체요溫度의異른外國

左様です溫度の異なつた外  
國の草木を温室内に入れて

花를咲니다

花を咲かせます



(三) 彼池端에는莞가多生在在소  
あの池の端には莞が澤山出  
へて居ります

(四) 池中에는蓮이多잇심니다  
池の中には澤山の蓮がござ  
ります

(五) 今度躑躅의繁盛이요  
今丁度躑躅の眞盛りです

(六) 彼方鉢植木은何木고奇異  
木ですか珍しい木です  
木ですか珍しい木です  
ね

(七) 彼가是는西洋木제요  
左様です  
あれは西洋の木で  
しやう

(八) 花香을慕고蜂蝶등昆虫花の香を慕つて蝶や蟬など  
이多飛廻하야居소  
の昆虫が澤山飛び廻つて居  
ります

(九) 番手가草木에水를注니다  
番人が草木に水を注いで居  
ります

第四十六日 動物園

(一) 今日은天氣도 좋코其中  
今日は天氣がよくて其上に  
暖하니何處散步갑셔다  
暖かですから何處かへ散歩  
しましやう



(二) 동물園을 見러 去면 如何 合  
動物園を見に行つては如何  
ですか

(三) 何시 他르 動物이 來습데 사  
何がかはつた動物が來まし  
たか

(四) 獅子과 大蛇가 新로 來다 고  
獅子や大蛇などが新しく來  
たと云ふ話です

(五) 然則 偕갑 세다  
夫れでは一處に行きましょ  
う

(六) 彼거 見시 요 彼檻內에 大虎  
あれ御覽なさいあの檻の内

이 잇습니다

に大きな虎が居ります

(七) 何處産物이 요

何處産ですか

(八) 朝鮮이 라고 書有 습니다

朝鮮産と書いてあります

(九) 彼小禽館에 드러가 봅세다

あの小禽館へ這入つて見ま

しやう

(〇) 彼羽치 美은 鳥는 何시 요

あの羽の美しい鳥は何です

か

(二) 彼는 鳩기 種類요

あれは鳩の一種です

(三) 鸚鵡가 人語으 승니 들니 고

鸚鵡が人語の眞似をして居



잇습니다

ります

(三) 彼溜池을 보시 요 駕鴛이 가

あの溜池を御覽なさい 駕鴛

離지 안코 二羽이 가 부터셔

が番はなれず二匹ひつつい

집거운摸樣으로 헤엄치고

て樂しそうに泳いて居りま

잇습니다

す

(四) 丹頂鶴이 鳴러 잇소

丹頂の鶴が鳴いて居ります

(五) 鶴이 巢에 入러 잇습니다

鶴が巢籠りをしたそうです

(六) 啄木鳥가 嘴로 其處를 廻啄

ハツノきが嘴で其處らをつ

와서 櫃를 瑕天地를 망그란

さまはして箱を疵たらけ

습니다

にしました

(七) 大蛇가 何處에 잇습니가

大蛇は何處に居りますか

(八) 彼方に 橫히 위 잇습니다

彼方に横はつて居ります

(九) 彼가 象가 大身體를 動함니

あれ象が大きな身體を動か

다

して居ります

(十) 餌를 줄가 하고 思 합지 요

餌をもらはふと思つて居る

のでしやう

(三) 彼馬은 何處에 馬이 니가

あの馬は何んですか

(三) 彼는 亞拉比亞馬입니다

あれは亞拉比亞馬です







(二) 其는 不便불편을 爲爲스 于于 今今 下下 人人

りません

夫夫れは 不自由不自由の とでしやう

令令 一一 名名 도 不使不使 시 면 一一 名名 도

今迄下婢今迄下婢を 一人一人も使はずに

無無서 도 其其 디 只只 寤寤 齋齋 든 안 則則

居たのなら 一人一人も居居ずこも

만 迄迄 今今 二二 名名 이 나 잇다 가 一一

其んなに 差支差支は ありません

時時 에 二二 名名 이 共共 出出 替替 시 면 嘸嘸

けれけれ도 今迄二人今迄二人も 居居つて 急

困困스 것 소

に二人共出に二人共出かはりかはりしたらさ

ぞお困りぞお困りでしやう

(三) 某條某條 貴公貴公 相當相當

左様左様です 何卒何卒 貴方貴方 相當相當の 者

者者 들 見見는 디 이 로 周旋周旋을

をれ見付け次第をれ見付け次第れ世話れ世話下さ

야 給給시 요

い

(四) 認認나 다 然然나 何何 歲歲 位位 되 는 것

畏畏こまりました 然然し 何何 歲歲 位位

시 適適當當함 니 가

のが お入用のが お入用ですか

(五) 上上 婢婢 와 下下 婢婢 와 二二 名名 을 用用터

上女中上女中と下女中下女中と二人要二人要り

이 나 上上 婢婢 는 十十 七七 八八 歲歲 라 도

ますが 上女中上女中の方の方は 十十 七七 八八

宜宜고 下下 婢婢 는 二二 十十 歲歲 以以 上上 으

歳歳でも 宜宜しいが 下女中下女中の方の方

로 서 身身 体体 强强 壯壯 을 克克 勤勤 勉勉 스

は 二十歳二十歳以上以上で 身身 体体 の 丈丈 夫夫

는 者者 시 아 니 면 不不 可可 함 니 다

なよく働働く者者でなければい



(六) 認アル것것소소見見는는디디이이로로通通告告하하

けません

오オ리リ다ダ

畏畏まりました見見付け次第第れ

(七) 先先日日貴貴所所託託하하는는下下人人一一名名이이

知知らせ致致しましやう

見見길길네네率率고고來來소소

先先日日お頼頼みを受受けて居居りま

(八) 上上婢婢니니가가下下婢婢니니가가

した女女中中を一人見見付付かりま

(九) 下下婢婢을을시시다다

したら連連れに參參りました

(二) 자자니니入入來來게게

上上女女中中ですか下下女女中中ですか

(二) 예예感感謝謝하하옵옵니니다다初初見見옵옵니니

下下女女中中の方方です

다다伏伏請請眷眷愛愛하하심심을을願願하하니니

れ前前れ這這入り

(三) 자자니니名名은은何何가가

御御願願ひ申申します

(三) 小小女女는는王王이이라라申申니니다다

れ前前は何何と云云ふ名名か

(四) 我我家家은은別別노노忙忙事事은은無無나나針針

私私は王王と申申します

製製事事를를少少하하야야주주게게

私私の方方は別別に之之れと云云ふて

(五) 예예何何라라도도命命教教을을從從하하는는지지

忙忙しい用用事事はなないけけれと針針

仕仕事事を少少しして貰貰ひたい



것심니다

します

(二) 于先此衣服縫給縫畢  
면又他事を말할러니

先に此衣服を縫つてくれ縫  
つてしまつたら又外の用を

(七) 敬認심니다

云ひ付けるから  
畏りました

第四十八日 朝飯

(一) 貴善寢與

お早うござります

(二) 貴善寢與

あーれ早う

(三) 貴公(老兄)는朝飯喰심시

貴方は朝飯を喰ひましたか

가

(四) 未喰심니다

また喰ひません

(五) 글어면早喰고來오今日를

夫れでは早く喰べて來なさ

共彼山에遊노往가思さ니

い今日は一處にあの山へ遊

가

(六) 글어면朝飯喰고來리다

夫れでは朝飯を喰べて來ま

しやう

(七) 粥은煮심니다

粥は煮えてありますか

(八) 粥은煮심니다

あ煮えてあります



(九) 某條上喰시요

何卒お上のあさい

(一〇) 此粥에는何던지入심니가

此粥には何が入れてあるの  
ですか

(一一) 小豆치入심니다

小豆が入れてあるのです

(一二) 小豆슬少入면粥味시조찬

小豆を少し入れると粥の味  
がよくなります

심니다

(一三) 沈菜를喰시요

漬物をおあがりなさい

(一四) 此沈菜는生臭나나何슬沈

この漬物は生臭さいが何を  
漬けたのですか

심니가

(一五) 菜과魚를沈故也

菜と魚とを漬けたからです

(一六) 茄子沈것슨음심니가

茄子の漬けたのはありませ  
んか

(一七) 茄子를沈심니다마昨日出

茄子を漬けましたけれど昨  
日出して見ましたら皆腐つ

여見則皆腐심디다

て居りました

(一八) 何故腐심딘가

何故腐つたのですか

(一九) 鹽加減이 잘몬된故덕함니

鹽の加減がよくなかつたか  
らでしやう

다



(三) 此沈菜에唐椒를少入면味  
시美게되리다

この漬物の中へ唐がらしを  
少し入れたら味がよくある  
でしやう

(三) 唐椒가入시나效음심니다

唐がらしが入れてあるので  
すけれど利きませんか

(三) 아辛々唐椒가一塊된것슬  
不知고食니辛서不堪것소

あ辛い／＼唐がらしが一つ  
に塊まつてあつたのを知ら  
ずに食ふたら辛くてたまら  
ない

(三) 글어든末安함니다

それはお氣の毒でした

(三) 舌가쇄々하여口内이燃는  
것如소

舌がひり／＼して口中が燃  
える様です

第四十九日

洋燈

(一) 此房은何故이러케暗것소

此部屋は何故こんな暗い  
のでしやうか

(二) 此房만暗것아니요今日를  
天에曇시니가平日보덤  
早暗게되였소

此部屋ばかりが暗いのでは  
ありません今日は空が曇つ  
て居るから何日もよりか早



(三) 早洋燈를點來오

早く洋燈を燈して來なさい

(四) 炎筒火筒의掃除가不精하

火屋の掃除が悪るいから火

니가火筒이暗曇다加着實

屋が曇りたらけたもつこ丁

리掃除하오

寧に掃除しなさい

(五) 幾度布片으로拭도此보덤

いくら布で拭いても之より

奇麗하잔심니다

奇麗になりません

(六) 其는子の掃除法이下手故

夫れはれ前の掃除の仕方が

다

下手だからだ

(七) 何하면淨하게 됩니가

何うしたら奇麗になります

か

(八) 先火筒内口氣를吹入려其

先に火屋の内へ呼氣を吹き

濕氣잇실時에布片로拭除

入れて其の濕氣のある時に

면淨潔케垢曇가剝落잔으

布で拭き取つたら奇麗に曇

나

りが取れるではないか

(九) 예分辨심니다

はい明りました

(〇) 글고炷切는法도不宜은

夫れから心の切り様が宜く

炷는先布片로煤을除고端

ない心は先に布で燃くずを



를描케하고서丸기베잔으  
면宜찬아  
取つて先を描へてから丸く  
きらなければ宜けない  
はい畏まりました

(二)에敬承심니다

夫れから油が盡きた時など  
はい畏まりました

點양으로油壺에油을注면  
不可하고若注油器에火리  
油を注してはいけない若し

건나면大火傷을할분아니  
라火災를起出할터니  
油注しに火がうつたら大火  
傷をするばかりでなく火災  
をおこすから

(三)에此后에는操心하시리다  
はい之れから氣を注けます

(四)又金口에煤이찌여黑되얏  
시면 잘不磨면暗서適잔하시  
又口金に煤かたまつて黒く  
なつて居るのはよく磨かな  
いと暗くて仕方がないから

(五)金口에煤이찌인것슨何樣  
케하시야도不落니다  
口金に煤のたまつたのは何  
様しても取れません

(六)只布片로拭셜에는 잘안셔  
러지니磨粉을발나 잘磨라  
只布で拭いたばかりでは取  
れないから磨粉をつけてよ  
く磨け



(七) 예 敬認심니다

はい畏まりました

(八) 글고 洋燈은 常丁寧이

夫れから洋燈は常に丁寧に

取扱서 火筒들을 破壞사

取扱かつて火屋などを壊さ

케하케

ない様にしあさい

(九) 宜심니다

宜しうござります

第五十日 轎

(一) 從此 京城에 行思을사나

これから京城へ行かうと思

人力車를 乘고 行는 것시 宜

ひますが人力車に乗つて行

가 又は 轎를 乘고 行는 것시

くのが宜しいが又は轎に乗

宜가

(二) 近路면 人力車片이 宜체만

近い道ならば人力車の方が

遠路면 轎를 乘고 行는 片이

宜しいが遠い道ならば轎に

反여 宜것심니다

乗つて行く方が反つて宜し

うでさいませう

(三) 글은 轎를 乘고 行것소 轎

夫では轎に乗つて行きませ

를 準備하야 給오

やう轎の準備をして下さい

(四) 輿軍은 速步者를 雇시다

輿丁は早く歩るくのを雇ひ

ませう



(五) 準備は右出來ましたか

準備は右出來ましたか

(六) 輿丁が未だ参りません

輿丁が未だ参りません

(七) 夫れでは急いで來る様に云つて下さい

夫れでは急いで來る様に云つて下さい

(八) 輿丁が参りました

輿丁が参りました

(九) 夫れでは直ぐ出掛けまじやう

夫れでは直ぐ出掛けまじやう

(一〇) 輿丁が何方まで参りましたやう

輿丁が何方まで参りましたやう

(一一) 夫れは何方まで参りましたやう

夫れは何方まで参りましたやう

(一) 京城迄行け

京城迄行け

(二) 荷物が多すぎますか

荷物は澤山ござりますか

(三) 荷物は手荷物だけだから軽いものか

荷物は手荷物だけだから軽いものか

(四) 旦那何卒乗れ下さい

旦那何卒乗れ下さい

(五) 急いで行け、しかし轎をひそくゆつてはいかぬ

急いで行け、しかし轎をひそくゆつてはいかぬ

(六) 夫れは畏まりました

夫れは畏まりました

(七) 旦那公に認めます

(八) 旦那公に端の方へお寄せ

旦那公に端の方へお寄せ



하시면片方에만重서몬步

심니다

り下さいましては片方ばかり重くて歩けません

(元) 酒代슨 早 着면着는 디이

로多與러니

酒代は早く着けは着い丈に餘計に與るから

(二) 感謝하옵니다

有難うござります

(三) 尊公足이痛몬步것심니다

旦那足が痛を歩ません

(三) 何글어냐

何うしたのか

(三) 니 무急步하故로足리痛니다

あまり急いで歩るいたものですから足が痛くなりまし

다

た

(四) 글어면他驕軍과交替라

夫れでは外の輿丁と交替せ

よ

(五) 예글어면彼村迄行면驕軍

이多잇시니其處迄往서替

はい夫れでは彼方の村迄行くに輿丁が澤山居りますか

니다

ら其處迄行つて替りまじや

(六) 자니足困하것다

う御足勞た

第五十一日

依頼買物

(一) 尊公는今番에亞米利加合貴方は今度亞米利加合衆國



衆國ユンノクへ行ハ실シル덧ト하ハ나ナ眞實ジンシル喜ハム  
へ行かれるそうですが眞正  
ですか

(二) 예イエ、眞實진실합니다니本月望頃  
はい眞正です本月の中頃に  
에エ當地당지를를出發출발할할터터이이요  
當地を出發するつもりです

(三) 何事무슨일도도行가심심니니가  
何の御用で行かれるのです  
か

(四) 商業視察상업시찰를를爲위하하여여行가니니다  
商業視察の爲に行くのです

(五) 글글어어믄믄甚심이이惶悚황悚하하오오나나我나夫나れ나で나は나甚심た심恐공入공ま공した공が  
夫れでは甚た恐入ましたが  
가가貴귀公공에에一일依託의탁할할것것시시잇잇私나は나貴귀方방に나一일つ일れ일願원ひ원が원で

심심니니다다

ざります

(六) 何事무슨일이이요요

何の用ですか

(七) 米國미국へ行가시시면면憵種양종々々珍物진물

米國へ行かれましたらさぞ

이이多다잇잇것것시시니니某條아무조각何나나나新신

種々の珍しいものが澤山あ

見物보물이이잇잇거거든든買給사시시기기를를

るでしやうから何卒何か目

望바람니니다다

新しいものがあればお買求

め下さいませんか

(八) 其그는는易事이쉬운일이이요요家나도도何種무슨종々々

夫れはお易い御用です私も

珍物진물를를買來사러러이이니니가가其時그때

何れ種々の珍しいものを買



에 貴公 것도 買置 것소

つて来るつもりですから其  
序に貴方の分をも求めて置  
きまじやう

(九) 感謝 喜 옵 니 다 貴 旅 行 中

은 種 々 之 事 가 多 것 는 데 家  
의 請 託 을 聽 給 시 니 大 端 感

謝 喜 옵 시 다

(一〇) 千 萬 에 말 심 이 요 其 디 지 禮  
言 하 실 事 是 無 심 니 다

有難うござります御旅行中  
は種々な御用も澤山有ませ  
うに私の願をお聞届け下さ  
いまして有難うござります  
何う致しまして夫んなお禮  
を云はれる程のとはあり

(二) 千 圓 이 있 스 니 某 條 此 持

去 給 시 요

三 金 銀 是 要 安 喜 니 다 金 是 我

게 서 交 換 喜 야 置 시 다

ません  
夫れでは失禮ですが茲に金  
が千圓ありますから何卒こ  
れをれ持ち下さい  
金なんどは要りません金は  
私の方で取替へ置きますか  
ら

(三) 我 의 品 物 을 買 給 시 던 데 貴

의 品 物 을 買 給 시 던 데 貴

夫れは實に恐れ入ります私  
の品物を買つて来て戴くの



シケケフワンヨシハムシムイフルアンハムニ  
 公に換用面甚い不安喜ニ  
 貴方に取換へて戴いては  
 다특리米國은物價의高處  
 濟みません特に米國は物價  
 니가此만金으로は何  
 の高いところですからこれ  
 不足す것심니다글하  
 左丈くらいの金ではとても足  
 右間此것만持去給시요  
 りませんでしやうけれど兎  
 も角これ丈お持ち下さい

(四) 글어면持去것소

夫れでは持て行きまじやう

(五) 不足하거든某條換用하야

足ぬところは何卒お取かへ

給시요

下さい

(六) 不足하든안합제요尤買物

足らぬことはありませんで

으로由上等物를多買면

しやう尤も買物の仕方によ

幾何던지金이要제만其러

り上等の物を澤山買へば幾

케買도不宜하니此만히도

何でも金は要りますけれど

十分되리다

夫んなに買つてもいけませ

んからこれで充分でしやう

第五十二日

注文品之催促

(一) 先日付託하야置書籍櫃보  
 先日注文して置いた書棚は  
 되였소  
 も一出来まじたか



(二) 未畢矣アツクアシツエヤツソ

未だ出来ません

(三) 보付託함으로부터三ヶ月

も一注文してから三ヶ月に

이 되얏는데未畢云者는云

もなるのに未だ出来ないこ

何理由乎

は何う云ふ理由ですか

(四) 正月 早々忙서遲滯되얏

正月早々忙はしかつたので

심니다

遅くなりました

(五) 遲晚된所는음서昨年未에

遅くなつたところではない

付託한것시本年三月迄未

昨年未に注文したものが

畢云者는餘甚스잔은가

本年になつても未だ出来な

いと云ふのはあまりひどい  
ではないか

(六) 何分 他處에서多受託物

何分外様から澤山あつらへ

잇서容易케手이不廻니다

物がござりまして仲々手が

廻りません

(七) 글어면他人의承託호物는

夫れでは外の人のおつらへ

先하고我的付託호것은後

た物は先にして私のあつら

에한다는말린가

へたものは後廻しにするこ

云ふのか



(八) 否、決코글어호理는음심

いへ決して左様云ふ譯で

니다其他付託品은依然貴

はありません外様の注文品

公것보덤先付託을受소吾

はやはり貴方のよりは先か

家은受託호順次로하니가

ら注文を受けて居りました

後受託은依然後된마는理

私の方は注文の順番によつ

나다

て致しますのですから後の

注文はやはり後になること云

ふ譯です

(九) 글어케遅晚되어其他付託

斯んなに遅くおつて外の注

한사람은黙々히居는가

文した人々は黙つて居るの

か

(一〇) 否、彼方서나此方서나催

いへ彼方からも此方から

促을受니가近頃は徹夜로

も催促を受けて居りますか

從事하야도未手廻기가難

ら近頃は徹夜で仕事をして

심니다

居りますけれど未だ手が廻

り兼ねますのです

(二) 그되지多付託品이잇소

其んなに澤山の注文品があ  
るのか



(三) 예、此間當地에學校가된  
 것인데諸國서學生等리一  
 時에多來서니書櫃와机等  
 付託品이頗多함니다

はい此間當地に學校が出来  
 ましこれので諸國から學生の  
 方が澤山一時に來られまし  
 たものですから書棚や机な  
 どの注文品がかさみました  
 夫れでは一体私の注文した  
 書棚は何時出来るのか

(四) 只今爲는事리今日畢さ  
 가畢次第로明日午前内に

只今掛つて居ります仕事が  
 今日に終りますから終り次

期於畢了さ야置것소

第明日午前中に屹度致して  
 置きますから

(五) 을은明日午後에取尋  
 로來터니期於製置오若不  
 成야시면自此以後로는君  
 의店에는付託안할터니

夫れでは明日の午後に取り  
 に来るから屹度こしらへて  
 置いてくれ若し出來てなか  
 つたら之れから以後お前の  
 店で注文はしないから

(六) 敬認심니다明日은違잔코  
 히置리다遲晚이되야失禮

畏まりました明日間違なく  
 致して置きますしやう遅くな



하얏소

つて失禮しました

第五十三日

書ヲ依頼ス

(一) 我는此番에轉宅(移舍)을 하얏소  
 나는今度轉宅しましたら以前の家よりは廣うござりませ  
 廣故로裝飾品이不足함  
 前の家よりは廣うござりませ  
 廣故로裝飾品が足りません  
 니다其故로貴公계額字를  
 夫れですから貴方に額を書  
 書得欲來심니다  
 いて頂きたいと思つて参り  
 ました

(二) 何所位掛타이요

何の間にお掛けになるので

(三) 書齋에掛것시요

書齋に掛けるのです

(四) 何位大나가

何の位の大きさですか

(五) 此處紙가有나此者세書給

此處に紙がござりますから

시요

これにれ書き下さい

(六) 書齋에掛실터면古之聖賢의語이리도書시다

書齋にお掛けなさるのなら  
古の聖賢の語でも書きませ

やう

(七) 某條至히願합니다

何はい何卒宜しく願ひます、



時頃迄書給しセシムカツシチメシケツソ こと

何時頃迄に書いて頂けます

(八) 今月内クムワタルナエに書置シテツケツソ こと

か  
今月中に書いて置きましょ

(九) 先日ソコニイル依託イタクハヤをトツトシ置イニテ置サ 額字ヌシ 額書ボシツクシム 心ニ 加カ

う  
先日お依頼して置きました  
額はもーれ書き下さいまし  
たか

(一〇) 下覽イニトエ 事ヤツソ 下覽ボシ 事シ 要ヨ

はー出来ました御覽下さい

(二) 大端タエダシ 美麗ミリチケ 物トエ 成ヤツソ 此イ 物コツ 事スル

大層美事に出来ましたこれ

掛面書齋コルメンシチサエ 加實カシク 燦爛ロツアン 物モノ 見ミ  
物モノ 事コト

を掛けましたら書齋が實に  
立派に見ゆまじやう

(三) 三千万チチンマン 事コト 要ヨ

何う致しまして

(三) 此イ 甚コシ 甚コシ 失禮シレ 事コト 要ヨ 答禮マンダレ 事コト 要ヨ  
標ヒコ 喜ハム 事コト 要ヨ だ

之れは甚だ失禮ですがお禮  
の印でござります

(四) 貴公キキウ 某條マシヨウ 止トメ 事コト 要ヨ

貴方何卒お止し下さい

(五) 甚コシ 些シヤ 少シヨ 事コト 要ヨ 失禮シレ 事コト 要ヨ 某マシ 甚コシ 些シヤ 少シヨ 事コト 要ヨ 失禮シレ 事コト 要ヨ 何卒ナニゾ お納めナドメ 下さいサイ 夫れコノ から  
條受領ジョウリョウ 給キタマ 事コト 要ヨ 今イマ 又マタ 何卒ナニゾ お納めナドメ 下さいサイ 夫れコノ から  
惶悚フワンクツ 事コト 要ヨ 一丈書得欲イツサウシヤクタクシブ 又マタ 恐入オソイ りリ ますマス けれケレ どもドモ 一

甚だ些少で失禮ですけれど  
何卒お納め下さい夫れから  
又恐入りますけれどもー



者시잇심니다

枚書いて頂きたいものがござります

(六) 何시요

何ですか

(七) 此番者슨客室에掛티니某條緣起好것슬書給시요

今度のは客間に掛けるのですから何卒縁喜のよいものを書いて下さい

(八) 敬認심니다瑞氣滿堂이라云如든것슬書것소

畏こまりました「福氣滿堂」云ふ様なものを書きましょやう

(九) 感謝하옵니다

有難うござります

第五十四日

人力車

(一) 야, 車夫야

れい車や

(二) 에, 나리侍고가리다

はい、旦那れ供致しませう

(三) 博覽會사지幾錢이야

博覽會迄幾錢た

(四) 나리某條路乘주시요

旦那何卒れ乗り下さい

(五) 先저價슬定하지아니면不可하다

先に直段を定めなければいけません

◎第五十四日



(六) 其는 소견 디로 주시요

夫れは御隨意に

(七) 아 니 價를 定 하 지 아 니 면 乘

いや直段を定めなければ乗  
らない

지안는다

(八) 그 러 면 二 十 五 錢 만 주 시 요

夫れでは二十五錢やつて下  
さい

(九) 其는 大 端 이 빚 사 다

夫れは非常に(滅法)高い

(一〇) 今日 은 道 이 사 나 우 니 平 時

今日は道が悪うございます  
から常よりは三割方高うで  
ざります

보단 三 割 쯤 빚 사 올 시 다

(二) 아 리 博 覽 會 에 行 時 에 는

此間博覽會へ行つた時は十

二 錢 에 乘 다

二錢で乗つた

(三) 나 리 其 러 케 살 理 치 업 습 니

旦那夫人なれ安いとはあり

다 그 러 면 二 十 錢 에 하 여 들

ません夫れでは二十錢に致

시 다

して置きましょう

(三) 今日 은 道 이 峻 하 니 十 五 錢

今日は道が悪るいから十五

주 지 其 러 키 셔 안 되 면 고 만

錢出さう夫れでいけなけれ

둔 다

ば止そう

(四) 나 리 其 러 케 말 습 하 지 말 고

旦那左様仰しやらないで十



十八錢만 주시오

八錢やつて下さい

(一) 할수업다十六錢 줄나

仕方がないから十六錢やら

(二) 그리면某條를乘십시오

夫れでは何卒れ乗り下さい

(三) 今日은急하니이렇게빚사  
게준다其代로빨나가자

今日は少し急ぐからこんな  
に高く出すのた其のかはり

(四) 에이그러커리다

へい畏こまりました

(五) 遲게간다더빨나가자

走り方が遅いものご早く走

れ

(一) 나리道이嶮하여서思과갓

旦那道が悪うございますか

치가지못하갓소

ら思ふ様に走れません

(二) 酒蓋價나줄거나더빨나가

酒手をやるからものごと早く

어라

走れ

(三) 예예

へい

(四) 나리그만博覽會에來合니

旦那も博覽會へ参りまし

다

た

(五) 그러면約束한十六錢과酒

夫れでは約束の十六錢と酒



蓋價四錢과合二十錢주지手を四錢と都合二十錢やる

(二) 예고 말씀니다

へい、有難うございます

第五十五日 借金

(一) 我는今番商店을開구하나私は今度商店を開かうと思

資本이 좀不足하니通用이 ひますが資本が少し足りま  
되지못하겠소 せんから御融通が願へませ  
んか

(二) 何商店을開심니가

何商店をれ開きなさるので  
すか

(三) 和服商을開구합니다

吳服商を開かうと思ひます

(四) 和服商을開난데資本이其  
러케多이듬니가

吳服商を開くの<sup>に</sup>其んに澤  
山資本が要りますか

(五) 좀大히 할면如何리도資  
本이多치아니면안됩니다

少し大きく取引をしやうこ  
思へば何うしても資本が充

(六) 얼마쯤資本이 들겠습니다

何の位る御資本が要ります  
か

(七) 아무리도一萬五千圓이아

何うとても一萬五千圓なけ  
か



니면안되갓소

ればなりません

(八) 그러면一万五千圓貨히달

夫れでは一萬五千圓貸せ

난말이요

仰しやるのですか

(九) 아니요一万圓은 내가持고

い、へ一萬圓は私が持つて

이스니餘五千圓만貸히주

居りますから残りの五千圓

면조갓소

丈貸して頂きたいのです

(○) 確實한典當物이잇습니가

確實な抵當物件があります

(二) 我의只今居하난家屋과土

私の今住つて居る家屋と土

地를典當집피지요

地ごを担保に入れますしやう

(三) 其不動産の時價는幾증감

其不動産の時價は幾何程で

니가

すか

(三) 時價에對하여如何安게보

時價に見積つて如何安く見

와도八千圓가량이나가지

ても八千圓の價格はこざり

요

ます

(五) 그러면一番見고貸하여올

夫れでは一度拜見してから

나지요

お貸し致しませしやう

(六) 某條록보와주시요

何卒御覽下さい



- (一) 保証人はありますか  
保證人はありますか
- (二) 元利は幾何ですか  
元利息は幾何ですか
- (三) 還報期限は何日ですか  
還報期限は何日ですか
- (四) 本年の十二月の廿五日迄に  
本年の十二月の廿五日迄に  
返報は致しますか  
返報は致しますか

第五十六日 博覽會

- (一) 今年初めに貴國に博覽會が  
今年初めに貴國に博覽會が  
開かれたそうですね  
開かれたそうですね
- (二) 左様です、然し博覽會  
左様です、然し博覽會  
は何の爲に開くのですか  
は何の爲に開くのですか
- (三) 夫れは美術工藝を獎勵する  
夫れは美術工藝を獎勵する  
爲めです  
爲めです
- (四) 何故美術工藝の獎勵になり  
何故美術工藝の獎勵になり  
ますか  
ますか

第五十六日

三百二十七



(五) 美術家工藝家が自己の製作ばかり見て居ると自分の製作は天下第一如く思ふと居るは天下である如く思つて博覽會に出品さす他人の居りますければ博覽會に出製作物を見而後始自己の品して他の人の製作物を見技術劣等됨을分辨하고 시작하여自分の技術の劣つて居るとが明かる

(六) 其時야 勉工하여 他品에 負其處で勉強して他品に負け잔케 勉勵하는 故로 美術工ぬ様に勵みますから美術工

藝의 勸獎이 됩니다

藝の獎勵になるのです

(七) 아 是 是 明심니다 그 러 是 理 面 博覽會는 技術家의 伎倆 比較을 시다 아

成程明りました左様云ふ譯であるご博覽會は技術家の腕くらべであります

(八) 그 러 是 是 明심니다 그 러 是 理 面 博覽會는 技術家의 伎倆 比較을 시다 아

左様です技術家の腕競べばかりではなく又人智を開發させます

(九) 何故人智를 開發시킴니다  
(十) 內國은 勿論하고 外國에서

何故人智を開發させますか  
外國からも人智のあるだけ



ト人智<sup>イシ</sup>잇<sup>イッ</sup>는<sup>는</sup> 디<sup>디</sup>로<sup>로</sup> 絞<sup>絞</sup> 서<sup>서</sup>世<sup>世</sup>  
人<sup>人</sup>을<sup>을</sup> 驚<sup>驚</sup> 기<sup>기</sup>는<sup>는</sup> 出<sup>出</sup>品<sup>品</sup>을<sup>을</sup> 售<sup>售</sup>  
는<sup>는</sup> 故<sup>故</sup>로<sup>로</sup> 博<sup>博</sup>覽<sup>覽</sup>會<sup>會</sup>를<sup>를</sup> 一<sup>一</sup>番<sup>番</sup> 觀<sup>觀</sup>覽<sup>覽</sup>  
하<sup>하</sup>면<sup>면</sup> 世<sup>世</sup>上<sup>上</sup> 所<sup>所</sup>有<sup>有</sup> 智<sup>智</sup>識<sup>識</sup>을<sup>을</sup> 覺<sup>覺</sup>는<sup>는</sup>  
故<sup>故</sup>니<sup>니</sup>다<sup>다</sup>  
를絞つて世人を驚かす様な  
出品を致しますから博覽會  
を一度觀覽したならば世界  
のあらゆる知識を覺えるか  
らです

(二) 글<sup>글</sup>어<sup>어</sup>면<sup>면</sup> 博<sup>博</sup>覽<sup>覽</sup>會<sup>會</sup>는<sup>는</sup> 國<sup>國</sup>을<sup>을</sup> 文<sup>文</sup>明<sup>明</sup>  
에<sup>에</sup> 導<sup>導</sup>는<sup>는</sup> 基<sup>基</sup>本<sup>本</sup>임<sup>임</sup>니<sup>니</sup>다<sup>다</sup> 아<sup>아</sup>  
夫れでは博覽會は國を文明  
に導く基です予

(三) 글<sup>글</sup>엇<sup>엇</sup>소<sup>소</sup>、 其<sup>其</sup>故<sup>故</sup>로<sup>로</sup> 今<sup>今</sup>番<sup>番</sup> 朝<sup>朝</sup>鮮<sup>鮮</sup>  
에<sup>에</sup> 博<sup>博</sup>覽<sup>覽</sup>會<sup>會</sup>가<sup>가</sup> 開<sup>開</sup>것<sup>것</sup>스<sup>스</sup> 實<sup>實</sup>호<sup>호</sup> 好<sup>好</sup>  
左様です、夫れですから今  
度朝鮮に博覽會の開かれた

事<sup>事</sup>는<sup>는</sup> 云<sup>云</sup>잔<sup>잔</sup>으<sup>으</sup>면<sup>면</sup> 안<sup>안</sup>되<sup>되</sup>것<sup>것</sup>소<sup>소</sup>  
は實に結構なと云はねば  
ありません

(三) 그<sup>그</sup>어<sup>어</sup>면<sup>면</sup> 期<sup>期</sup>於<sup>於</sup> 一<sup>一</sup>番<sup>番</sup> 視<sup>視</sup>覽<sup>覽</sup>하<sup>하</sup>로<sup>로</sup>  
行<sup>行</sup>것<sup>것</sup>소<sup>소</sup>  
夫れでは是非一度觀覽に行  
きまじやう

(四) 그<sup>그</sup>하<sup>하</sup>시<sup>시</sup>요<sup>요</sup> 必<sup>必</sup>然<sup>然</sup>利<sup>利</sup>益<sup>益</sup>을<sup>을</sup> 得<sup>得</sup>所<sup>所</sup>  
가<sup>가</sup> 잇<sup>잇</sup>시<sup>시</sup>리<sup>리</sup>다<sup>다</sup>  
左様しなさい屹度利益を得  
るところがあるでじやう

(五) 明<sup>明</sup>日<sup>日</sup> 共<sup>共</sup>作<sup>作</sup>伴<sup>伴</sup>하<sup>하</sup>리<sup>리</sup>가<sup>가</sup>  
か  
明日一處にれ供しまじやう

(六) 예<sup>예</sup> 午<sup>午</sup>前<sup>前</sup> 九<sup>九</sup>時<sup>時</sup> 頃<sup>頃</sup>부터<sup>부터</sup> 行<sup>行</sup>시<sup>시</sup>다<sup>다</sup>  
はい午前九時頃から行きま



容易ヨシク一イチ日ニチ二ニ日ニチロロ是シ盡見ケンミ  
しやう仲々一日や二日では  
見盡ミケンされませんから

第五十七日 電話

(一) 幾號メツホよ

何番ですか

(二) 二百五十號イハイクオシフホ

二百五十番

(三) 아여보アヨボ

あー若しく

(四) 예, 誰심니가イヘ フクシムニカ

はい何誰ですか

(五) 我ナ는某メン선데貴公フクキョウ은府フ某メン氏シ

私は某ですが貴方は府さん

요

ですか

(六) 府某フメン데何事ニシ이잇습니イイツムニ가

のはい府ですが何の用です

가

か

(七) 貴宅キタク에金公キムコウ이居イ심シム니ニ가

お宅に金さんは被居います

か

(八) 에, 居イ심シム니다

はい居ります

(九) 某條ボツチョ록金公キムコウ을呼フ너ノ주チュ시오シヨ

何卒金さんを呼んで下さい

(〇) 暫間サムカン待キ리リ시오シヨ

一寸お待ち下さい

(二) 아여보アヨボ貴公キキョウ은誰ニ시오シヨ

あー若しく貴方は何誰で

すか



(三) 我<sup>ナ</sup>는 金<sup>ムネ</sup>某<sup>キム</sup>데 貴<sup>キ</sup>公<sup>クン</sup>은 某<sup>ム</sup>公<sup>クン</sup>심  
私<sup>シ</sup>は 金<sup>キネ</sup>ですが 貴<sup>キ</sup>方<sup>カタ</sup>は 某<sup>カ</sup>さん  
ですか

(三) 에 그 렇<sup>이</sup>심<sup>에</sup>니다 向<sup>향</sup>者<sup>자</sup>에 付<sup>부</sup>托<sup>탁</sup>  
はい 左<sup>ひだり</sup>様<sup>さま</sup>です、此<sup>こゝ</sup>間<sup>ま</sup>御<sup>ご</sup>依<sup>い</sup>頼<sup>ぞん</sup>  
置<sup>お</sup>든 事<sup>じ</sup>件<sup>けん</sup>은 如<sup>い</sup>何<sup>か</sup>케 도 였<sup>よ</sup>습<sup>す</sup>  
して 置<sup>お</sup>きま<sup>ま</sup>したあ の 一<sup>いっ</sup>件<sup>けん</sup>は

나<sup>나</sup>가  
如何<sup>いかに</sup>なりま<sup>ま</sup>したか

(四) 에、其<sup>기</sup>件<sup>けん</sup>事<sup>じ</sup>는 姑<sup>가</sup>되<sup>되</sup>지 아<sup>아</sup>낫<sup>낫</sup>  
はいあ の 一<sup>いっ</sup>件<sup>けん</sup>は 未<sup>い</sup>た 形<sup>かたち</sup>付<sup>つ</sup>き  
소<sup>そ</sup> ませ<sup>ん</sup>

(五) 何<sup>なに</sup>故<sup>ごと</sup>其<sup>その</sup>르<sup>る</sup>케 遲<sup>ち</sup>심<sup>し</sup>니 가  
何<sup>なに</sup>故<sup>ごと</sup>夫<sup>つま</sup>んなに 暇<sup>ひま</sup>さ<sup>さ</sup>る の だ  
か

(六) 別<sup>べつ</sup>노 遲<sup>ち</sup>것<sup>것</sup>도 업<sup>업</sup>습<sup>습</sup>其<sup>その</sup>事<sup>じ</sup>件<sup>けん</sup>은  
別<sup>べつ</sup>に 暇<sup>ひま</sup>さ<sup>さ</sup>る の だ は あ り ま せ  
如<sup>い</sup>何<sup>か</sup>런<sup>ん</sup>지 四<sup>よ</sup>五<sup>ご</sup>日<sup>にち</sup>걸<sup>が</sup>니 지 아  
んあ の 事<sup>じ</sup>件<sup>けん</sup>は 如<sup>い</sup>何<sup>か</sup>して も 四  
나<sup>な</sup>면<sup>めん</sup>되<sup>ど</sup>지 못<sup>も</sup>하<sup>あ</sup>오  
五<sup>ご</sup>日<sup>にち</sup>かゝらな<sup>ら</sup>な<sup>ら</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>ば 出<sup>い</sup>來<sup>き</sup>ま  
せん

(七) 如<sup>크</sup>그<sup>로</sup>러 면<sup>면</sup>된<sup>된</sup>답<sup>답</sup>에 電<sup>전</sup>話<sup>화</sup>로 知<sup>알</sup>구  
夫<sup>つま</sup>れで は 出<sup>い</sup>來<sup>き</sup>次<sup>じ</sup>第<sup>だい</sup>電<sup>でん</sup>話<sup>わ</sup>で お  
여<sup>여</sup>쥬<sup>쥬</sup>시<sup>시</sup>요  
知<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>下<sup>くだ</sup>さい

(八) 如<sup>크</sup>그<sup>로</sup>러 할<sup>할</sup>지 요 된<sup>된</sup>답<sup>답</sup>에 速<sup>속</sup>키 知<sup>알</sup>  
畏<sup>おそ</sup>こま<sup>ま</sup>りま<sup>ま</sup>した 出<sup>い</sup>來<sup>き</sup>次<sup>じ</sup>第<sup>だい</sup>早<sup>そう</sup>  
입<sup>입</sup>지<sup>지</sup>요  
速<sup>すみ</sup>お<sup>お</sup>知<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>致<sup>いた</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>や<sup>や</sup>う

(九) 會<sup>가</sup>日<sup>일</sup>午<sup>오</sup>后<sup>후</sup>에 宅<sup>택</sup>에 居<sup>거</sup>갓<sup>갓</sup>습<sup>습</sup>니  
今<sup>け</sup>日<sup>にち</sup>午<sup>ご</sup>後<sup>ご</sup>は 御<sup>ご</sup>在<sup>ざ</sup>宅<sup>たく</sup>です<sup>か</sup>



か

(二) 等に宅に居습니다

はい在宅です

(三) 然則今日午後三時頃に貴

夫れでは今日午後三時頃に

宅近傍へ行罷去ニ其時

にお宅の近傍へ参りますから

是貴宅に到るに其節にはお宅へ立寄るかも

知れません

よ

夫れではお待ちして居りま

(三) 然則待거니某條路 들으시

すから何卒お寄り下さい

요

お待ち下さるには及びませ

(三) 待 들건업소 들년지 들지 못

から

합년지姑不知니가

ん立寄るか立寄らないか未  
たしつかりと定まりません  
から

(二) 固 그러면三時가지待리갓소

夫れでは三時までお待ちし

萬一三時되도록來지아는

てをります若し三時になつ

면外出하가스니가

てもお寄りにならないければ

は外へ出ますから

第五十八日 演劇

(一) 貴公은朝鮮노름見일이잇貴方は朝鮮の芝居を見た

◎第五十八日

三百三十七



스름니가

はありますか

(二) 姑적본일업스一番보려합나다

未だ見たとはありません一

(三) 그러면今夜偕行셔보세다

度見たいと思つて居ります

夫れでは今晚一處に行つて見まじやうか

(四) 에感謝하오그러면偕가십세다

はい有難う夫れでは一處に

参りまじやう

(五) 此거시놀룸집이올시다

これが芝居小屋です

(六) 快활동한노룸집이오구레

仲々立派な小屋です予

(七) 入場券을二張주시요

入場券を二枚下さい

(八) 何等임나가

何等ですか

(九) 一 등이요

一等です

(一〇) 一 等 卷 은 皆 賣 비 렷 습 니 다

一等券は皆賣切れました

(一一) 그러면 할 슈업 소 二 等 標 를

夫れでは仕方がない二等券

주시요

を下さい

(一二) 二 張 에 一 圓 이 올 시 다

はい、二枚で壹圓です

(一三) 使 員 此 長 二 員 를 二 等 席 에

ボーイこの日那れ二人を二

侍 서 다 올 너 라

等席へ御案内致せ



(一四) 나리侍다 올니라 다某條 且那御案内致しましやう何

록此노로오시요 卒此方へお出でなさい

(一五) 此게坐시요 此へ座り下さい

(一六) 此게는 잘視지 아니셔不可 此へは見悪くていかぬ他こ

하오他데과바구와주게 かへてくれ

(一七) 他더는皆차이스니此게셔 外は皆ふさいで居りますか

苦상하여주시요 此へで御辛棒下さい

(一八) 此런端선도무치보이지안 此んな端の方ではこても見

소어더든지中과바과주게 えぬ何處か真中の方こかへ

中가空거시아니냐

でくれ真中の方があいて居  
るではないか

(一九) 彼는昨日부림말하여이셔 あれは昨日から承はつて居  
々貸나지안쏘 りまして貸切になつて居り  
ます

(二〇) 그러면할수가無스니여게 夫れでは仕方がないからこ  
안찌 へにしやう

(二一) 大端이美운帳布이요 仲々美事な幕ですぬ

(二二) 只今開布하난指圖가이 はい只今開幕の合圖があり



셋습니다

(三) 야대단무대가奇麗하고又  
器具가 훌륭하우

(四) 貴公은 무준말인지알갓소

(五) 何신지조곰도모르갓소  
그러면滋味업지요아니요  
그말은모르나舞童의身놀

니난데알갓소

ました

おや中々舞臺が奇麗で夫れ  
に道具立が立派です子

貴方臺白がお分りですか  
臺白は少しも明りません

夫では面白くないでしやう  
いゝへ、臺白は分りません

けれど役者の身振で明りま  
す

第五十九日 慰祝解産

(一) 貴公は何處行심니가

貴方は何處へ行らつしやる  
のですか

(二) 我는昌某氏宅에慰祝사로  
行니다

私は昌さんの家へ祝ひに  
行きます

(三) 昌某氏宅에何慰祝事가잇  
섯심니가

昌さんの家に何んな祝事  
がありましたのですか

(四) 其人의内子가解産을섯담  
니다

昌さんの奥さんが出産せら  
れたそうです



(五) 男子니가女子니가

男のお子ですか女のお子で  
すか

(六) 其는不知니다

夫れは知りません

(七) 何日解産せ섯소

何日出産なさいましたか

(八) 昨日解産せ섯담니다

昨日出産せられたと云ふ事  
です

(九) 그어면我도慰問せ로不行

夫れでは私もお祝に行かね  
ばなりません

면不爲것소

(一〇) 共參與せ리가

一處に参りませうか

(二) 我는家に歸せ進物を買持

私は家に歸つてお祝物を買  
調へてから行かうと思ひま

고서行라고思함니다

す

(三) 行는道에서買持도宜체요

行く道で買ひ調へても宜し  
いでしやう

(三) 에글함시다然나貴公는何

は一左様しましやう然し貴  
方は何をお祝にれ上げなさ

슬慰問으로上릴터이요

るれつもりですか

(四) 我는白木(木綿)을上릴가

私は木綿を上げやうと思ひ







(一) 男兒림니다

男でござります

(二) 可愛함니다아

仲々お可愛らしいござりま

すね

(三) 千萬이요

何う致しまして

(四) 母子二分이俱健康하야喜

お二方(母子)共お健康で

함니다

結構です

(五) 元예貴德으로母子俱無事함

はいお蔭で母子共無事でご

니다

ざります

第六十日 求婚

(一) 張公何如소

張さん今日は

(二) 好日氣이다何他話나無

はい好いお天氣ですな何か

乎

變つた話でもありませんか

(三) 別로他話은無나今日來것

別に變つた話もありません

스實로貴公케請호구심은

が今日参つたのは實は貴方

事리잇서來심니다만貴公

におたのみしたい事があつ

聽許시갓소

て参りました貴方聞いて下

さいますか

(四) 我力에適當호면何던지

はい私の身に適つたとなら



하갓심니다

何んでも致しましやう

(五) 我는今年에二十歲가되여

私は今年二十歳になりまし

시니速히一人의妻를娶할

たから早く一人の妻を娶ら

주로思사나貴公周旋사여

うご思ひますが貴方ね世話

주시갓소

をして下さいませんか

(六) 念慮마르시요然나何歲位

宜しうござります、然し何

되난女이宜합니다

歳位な女が宜しうございま

すか

(七) 齡은十七八歲迄로서門閥

歳は十七八歳迄系統正しく

이조코教育도잇고且美貌教育があつて其上に美貌で

가아니면不可합니다

なければいけません

(八) 그러케具備할것슨ぞ難년

其んなに三つ揃つたのは、

지不知나念慮마시요周旋

ちご六ヶ敷いかもしれませ

하리다

んが、宜しい、お世話致し

ましやう

(九) 誰나貴心に當것시잇소

誰かれ心當りでもあるので

すか

(一〇) 예一人이有스니가明日來

はい一人心當りがあります



서話を가소

から明日参つて話して來ま  
しやう

何處の令嬢ですか

(三) 何處處女니가

私の親族に當る家で今年十

(三) 我親族되는家인데今年十

七歳になる美しい娘です貴

七歳에나는美娘리요貴公

方と夫婦にしましたら實に

과夫婦되면實로조호配偶

よい配偶でしやう

제요

夫れでは何卒宜しくれ願ひ

(四) 그하면某條請願합니다

申します

(五) 念慮마시오我期必코其處

宜しうございます私はきつ

女에許諾시킵니다

ご其娘に承諾させましやう

(六) 感謝하옵니다

有難うござります

(七) 貴公은今後에何슬하실디

貴方は今後何をなさいます

이요

れつもりですか

(八) 妻를娶은後支那에行商業

妻を貰つてから支那へ行つ

를할나고思합니다

て商業をしやうと思ひます

六十日間 日韓會話獨修 終





明治三十九年十月五日印刷  
明治三十九年十月十日發行

日韓會話獨修  
定價金五拾錢



著者 柳 淇 英  
著作 高木常次郎  
發行 大阪市東區安土町四丁目三十八番屋敷  
花井藤三郎  
印刷 大阪市西區立賣堀南通二丁目二百二十五番屋敷  
蒲田德次郎

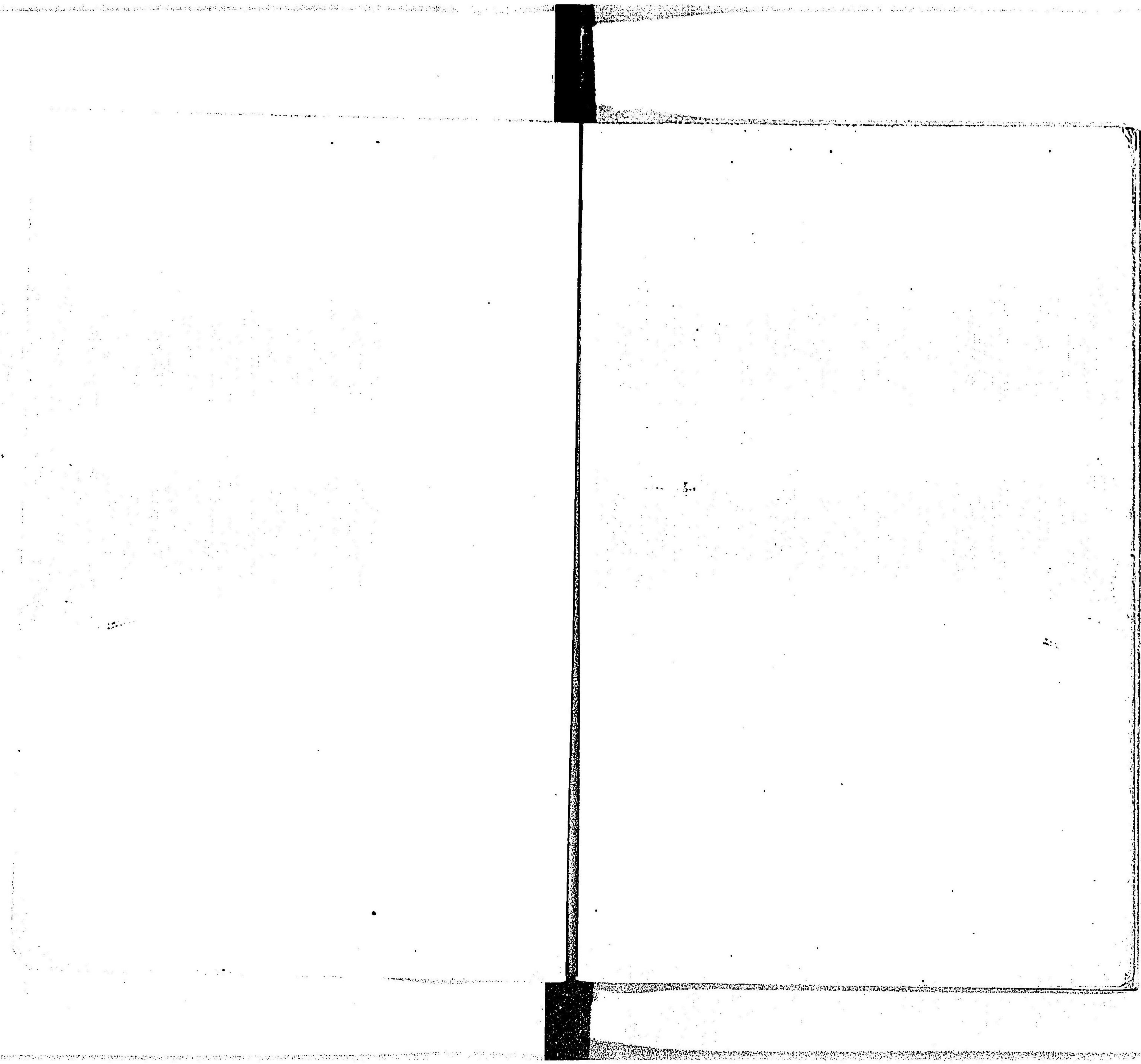
大阪市東區安土町四丁目

發行所

積善館本店

電話 東一三〇番  
振替 貯金口座二〇六六番

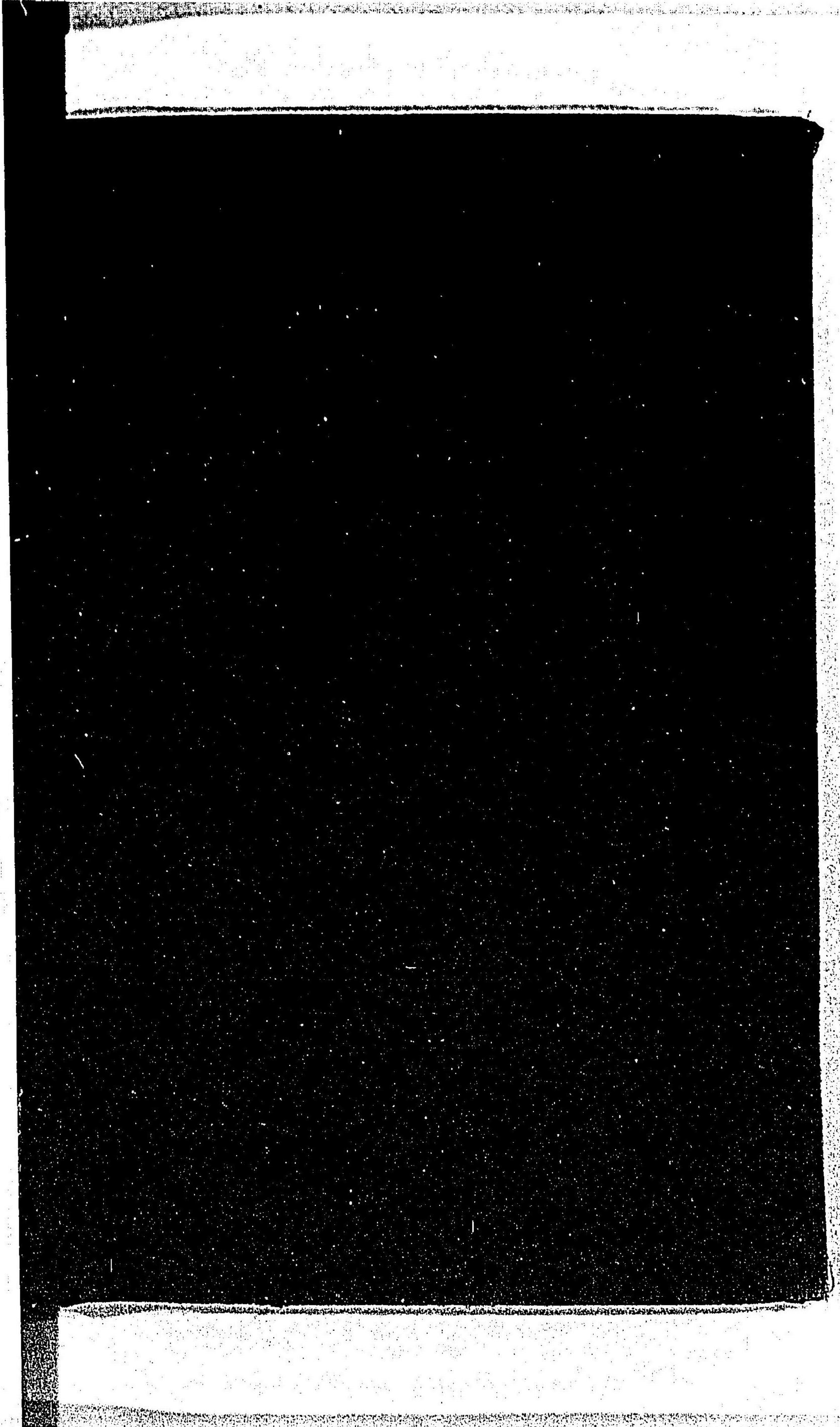




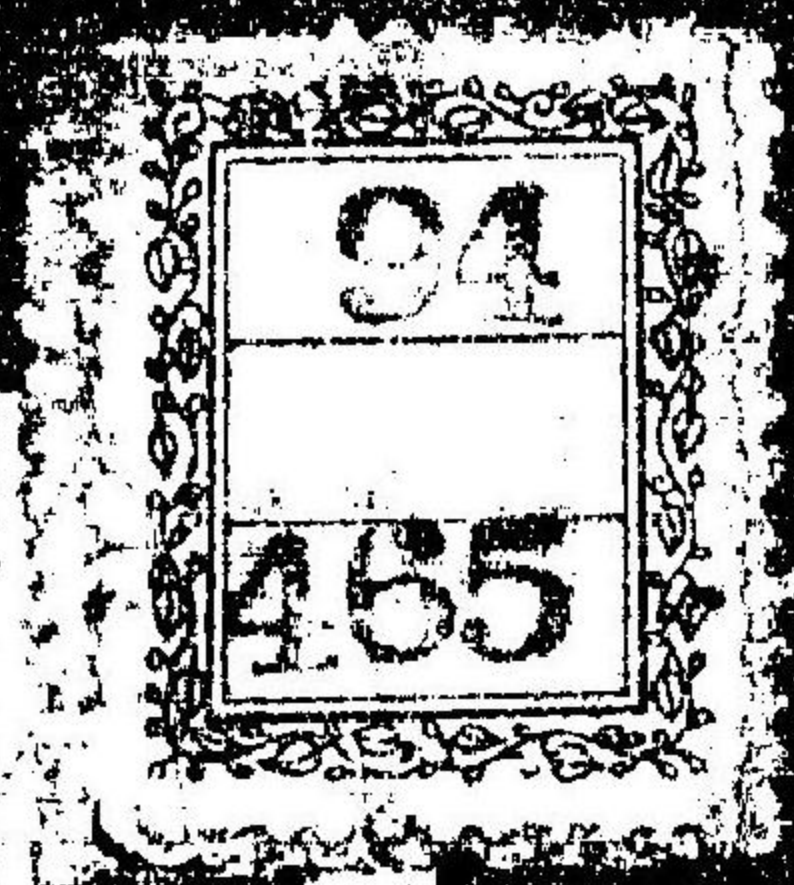


94
465









082562-000-8

94-465

日韓会話独修

柳 淇英

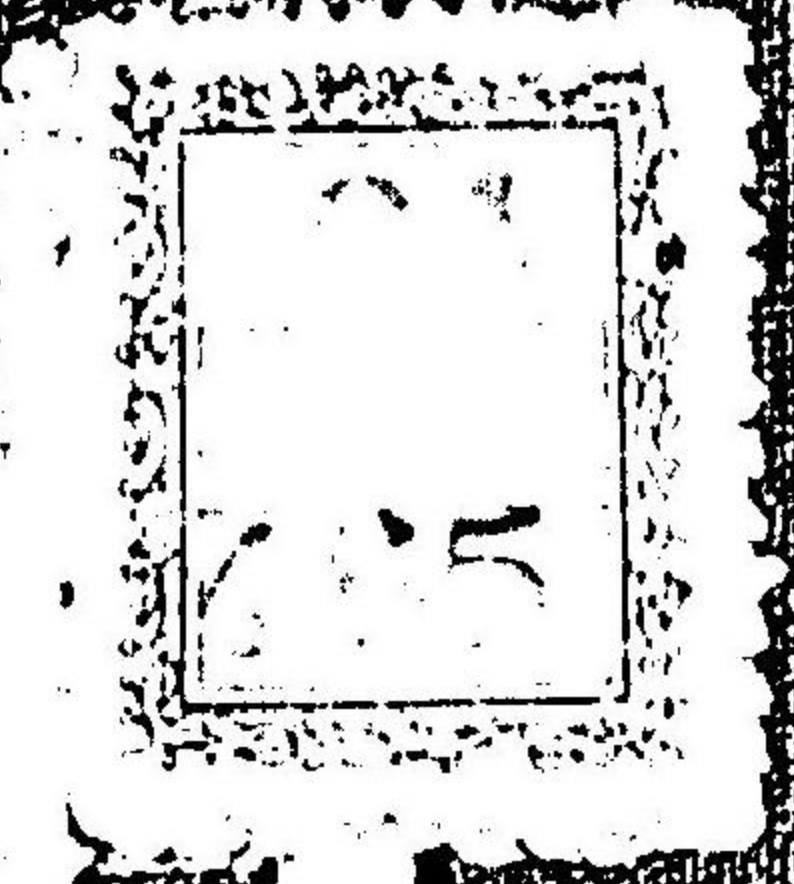
高木 常次郎 / 著

M39

DAF-0051







聖  
經  
全  
書  
卷  
之  
一

聖  
經  
全  
書  
卷  
之  
一





